

オーナーズ マニュアル

DUCATI MONSTER

MONSTER 400

MONSTER 400DARK



オーナーズマニュアル

DUCATI MONSTER

MONSTER 400

MONSTER 400DARK



Ducati モーターサイクルをお買い上げ頂き、ありがとうございました。貴方を、ドゥカティストの仲間として迎えることは、私共にとって何よりも喜びです。

新しい車両を日常の足として利用されるばかりではなく、ロングツーリングも楽しまれることと思います。Ducati モーター・ホールディング社は、常にその走行が快適で楽しいものであるよう願っています。

私共は、アフターサービスの改善に絶えず努めています。その努力の一環として、お客様にこのマニュアルに記載された正しい使用方法、特に慣らし運転の項を順守していただくようお願い致します。そうすれば、Ducati モーターサイクルは、あなたの要求にいつでも応え、最高のライディングがいつも楽しめることでしょう。

修理作業や適切なアドバイスが必要な場合は、Ducati 正規ディーラーの修理工場に是非お任せ下さい。

他のどこよりも *Ducati* を熟知したエキスパート達が、いつも万全の体制でお客様のご要望にお応え致します。

楽しいライディングを！



注意

Ducati モーター・ホールディング社は、本マニュアルの記載条項に誤りがあったとしても、これに対しいかなる責任も負うものではありません。

ここに記載された情報は、印刷された時点において最新のものです。

Ducati モーター・ホールディング社は、製品を改良、発展させていくために必要とされる、あらゆる変更を行う権利を保有します。

あなたの安全のために、そして保証の有効性、Ducati モーターサイクルの信頼性、価値を保全するために、Ducati オリジナルパーツのみをご使用下さい。



警告

本マニュアルは車両の一部とみなされ、車両を売却する場合には、常に新しい所有者に渡さなければなりません。

目次	
はじめに	6
保証について	6
シンボルマーク	6
安全運転のための注意	7
許容最大積載量	8
認識データ	9
運転に必要なコマンド	10
コマンド類の位置	10
メーターパネル	11
LCDユニットの機能	12
イモビライザー・システム	14
キー	14
コードカード	15
スロットルグリップを使用してイモビライザー・エンジンブロック解除の手順	16
キーの複製	17
イグニッションスイッチ / ステアリングロック	18
左側スイッチ	19
クラッチレバー	20
チョークレバー	21
右側スイッチ	22
スロットル・ツイストグリップ	23
フロント・ブレーキ・レバー	23
リアブレーキ・ペダル	24
ギアチェンジペダル	24
ギアシフトペダルとリアブレーキペダルの位置調整	25
主要構成部品 / 装備	26
車両上のポジション	26
燃料タンクキャップ	27
シートロック / ヘルメットフック	28
サイドスタンド	29
リアショック・アジャスターの調整	30
運転のしかた	32
慣らし運転の方法	32
走行前のチェック	33
エンジンの始動	34
車両の発進	36
ブレーキング	37
車両の停止	38
燃料補給	38

パーキング 39
アクセサリ 40

主な整備作業とメンテナンス 41

燃料タンクの持ち上げ 41
エアフィルターの交換 42
ブレーキ / クラッチ液量のチェック 43
ブレーキパッドの摩耗チェック 44
接続部の潤滑 45
スロットルケーブルの調整 46
バッテリーの充電 47
トランスミッションチェーン張力の調整 48
トランスミッションチェーンの潤滑 49
電球の交換 50
ヘッドライトの光軸調節 53
タイヤ 54
エンジンオイルレベルの点検 56
スパークプラグの清掃と交換 57
車両の清掃 58
長期間の不使用 59
重要注意事項 59

テクニカルデータ 60

全体寸法 (mm) 60
重量 60
燃料補充 61
エンジン 62
タイミング・システム 62

性能データ 63
スパークプラグ 63
燃料供給 63
ブレーキ 64
トランスミッション 65
フレーム 66
ホイール 66
タイヤ 66
サスペンション 66
排気システム 67
カラーバリエーション 67
電気装置 67

定期点検メモ 71

はじめに

保証について

あなた自身のため、また製品の信頼性を保証するために、特に専門的技術が要求される整備作業は、*Ducati* 正規ディーラーの修理工場にお任せ頂くよう強くお勧めします。*Ducati* 正規ディーラーの熟練したスタッフが、どのような整備作業も行える適切な器材道具と、完璧な互換性、円滑な作動、ロングライフを保証する *Ducati* オリジナル部品のみを使用して、最善のサービスを提供致します。

全ての *Ducati* モーターサイクルには保証書が添付されています。車両を競技やそれに類する目的に使用した場合には保証の対象外となります。また保証期間中に、たとえ車両の一部でも *Ducati* オリジナル部品でない物と交換したり、改造したり、変更した場合、*Ducati* モーター社の保証は適用されません。

シンボルマーク

この車両についてより良い理解を深めるため、当マニュアルを注意深くお読み下さい。車両について、不明な点、さらに詳しくお知りになりたい点がある場合には、ご購入先の正規ディーラーにお尋ね下さい。当マニュアルに記載された情報は、あなたの走行にきっと役立つことでしょう。*Ducati* モーター・ホールディング社は、快適で楽しい走行を願いつつ、長期にわたってあなたの車両が性能を保つようお手伝いしていきたいと思っております。本マニュアルには注意事項として、下記のシンボルマークが使用されています：



警告

この説明を順守しなかった場合、重度の負傷および死亡にまで至る危険性があります。



重要

車両ならびに車両構成部品に損傷を与える可能性があります。




注意

作業上の追加注意事項。

文中の「右」、「左」の表記は乗車位置から見た場合の表示です。

安全運転のための注意

 **警告**
運転する前に読んで下さい。

多くの事故はほとんど経験不足のために起こります。走行する際は常に免許証を所持しているか確かめて下さい; 免許証は期限が有効でお客様の車両の運転に適したものが必要です。

あなたの車両を未経験者、および有効免許証を持っていない人に貸さないで下さい。

ライダー、パッセンジャー共に **常に** 適した服装およびヘルメットの着用は義務となっております。

視界を制限したり、操作の妨げになるアクセサリーや物がない、適切なライディングウエアを着用して下さい。屋内では絶対にエンジンを始動したり、作動させたりしないで下さい。

排気ガスは有毒ですので、短時間で意識を失ったり、さらには死亡にまで至る危険性があります。

ライダー・パッセンジャー共に、車両が動いている間は足をフットレストに載せていて下さい。

急な進路変更や、路面状況の変化に対処できるよう、**常に** 両手でしっかりとハンドルバーを保持して下さい。パッセンジャーはシートサイドのパッセンジャー用Grabバーを **常に** 両手で保持しなければなりません。

走行地域の道交法、法律を遵守して運転して下さい。常に指示された速度制限を厳守するとともに、視界や道路条件、混雑の割合に合わせて、常に速度を調節して下さい。レーンチェンジする時や曲がる時には、**常に** 適時にウインカーを使用して早めに合図して下さい。

良好な視界を保ち、前方の車両の”死角”に入って走行しないようにして下さい。

交差点や、私有地の出口に近い場所、駐車場、高速道路への進入路等を走行する場合は十分に注意して下さい。


給油時は **常に** エンジンを停止し、給油の際、エンジンやエキゾーストパイプにガソリンをこぼさないよう特に注意して下さい。

給油時は絶対に、喫煙しないで下さい。

給油の際に、人体に有毒な酸化したガソリンを吸い込む可能性があります。もしもガソリンが皮膚や衣服に付着した場合は、直ちに石鹸と水で洗浄し衣服を取り替えて下さい。

車両から離れる場合は、**常に** キーを抜いて下さい。

エンジン、エキゾースト・パイプ、マフラーはエンジン停止後も長時間高熱を保ちます。

 **警告**
エキゾーストシステムは、エンジンスイッチを切った後も熱い場合があります。手を触れないよう充分注意し、車両を木材、木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにして下さい。

車両は人や物がぶつからないような場所にサイドスタンドを使用して駐車して下さい。

平面でないところや柔らかい地面、および車両が倒れる可能性がある場所には絶対に駐車しないで下さい。

許容最大積載量

この車両は長距離を最大積載量で安全に走行できるように設計されています。

重量をバランス良く配分することは、通常の安全走行に必要な注意事項です。凸凹道を走行したり、急な進路変更を必要とする時のトラブルを避けるために、特に重要です。

積載容量について

走行時の全車体重量は

ライダー、パッセンジャー、荷物、オプションパーツの重量を含んだ合計で

390 Kg を決して超えてはいけません。

積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置するよう努めて下さい。

積み荷は車両にしっかりと固定して下さい。積み荷が完全に固定されていないと車両転倒の原因になります。

車両が不安定になりますので、ハンドルバーやフロント・フェンダー部に、体積や重量のあるものを載せないで下さい。

フレームのすき間に絶対に物を挟み込まないで下さい。可動部分の妨げになる恐れがあります。

タイヤが、54 ページに定められた規定空気圧を保持し、また良いコンディションにあることを確かめて下さい。

認識データ

すべての *Ducati* モーターサイクルにはフレームナンバー (図 1) とエンジンナンバー (図 2) の2つの製造番号が付いています。

フレーム N.

エンジン N.



注意

これらの番号は、お客様の車両モデルを識別するためのものですので、部品を注文する際に必ずお知らせ下さい。

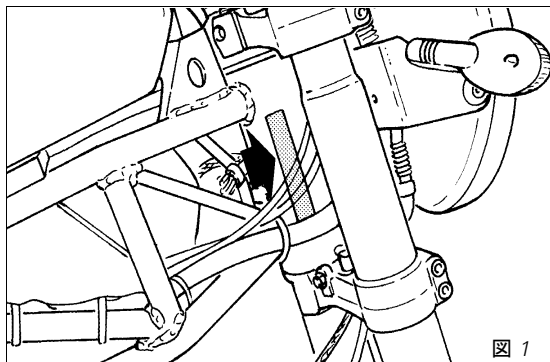


図 1

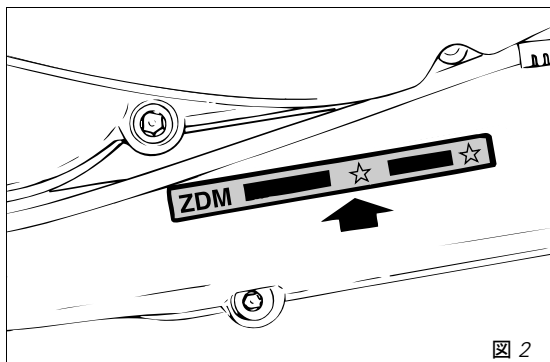


図 2

運転に必要なコマンド



警告

この章には、車両を運転する上で必要な全ての操作類の機能と配置が詳しく説明されています。操作類を使用する前に、注意深く読んで下さい。

コマンド類の位置 (図 3)

- 1) メーターパネル
- 2) イグニッション・スイッチ / ステアリング・ロック
- 3) 左側スイッチ
- 4) クラッチ・レバー
- 5) チョークレバー
- 6) 右側スイッチ
- 7) スロットル・グリップ
- 8) フロント・ブレーキ・レバー
- 9) ギアシフト・ペダル
- 10) リアブレーキ・ペダル

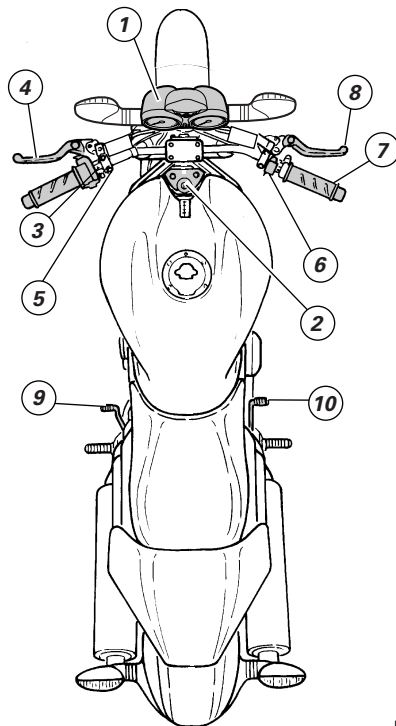


図 3

メーターパネル (図 4)

1) ハイビーム表示灯 (青)

ハイビームが ON の時に点灯します。

2) ウィンカー表示灯 (緑)

ウィンカーを ON にすると点灯してから、点滅を始めます。

3) 燃料レベル警告ランプ (黄)

燃料タンクの燃料が約 3.5 リットルになった時に点灯します。

4) ニュートラル・ライト N (緑)

ギアポジションがニュートラルの時に点灯します。

5) エンジンオイル圧警告灯 (赤)

エンジンオイルのプレッシャーが低すぎる時に点灯します。イグニッションスイッチを ON に移動すると点灯し、通常はエンジン始動後数秒で消灯します。

エンジン温度が高い時に、場合によって数秒間点灯することがありますが、回転数が上がると消灯します。

重要

エンジンに重度の破損をもたらす恐れがあるので、このインジケーターが点灯したままの時には車両を使用しないで下さい。

6) 黄色琥珀色 ランプ

車両が停車されている時に点灯、点滅します (インモバイザー ON)。インモバイザーが機能しているかもチェックできます。

注意

インモバイザーが正常に機能している時は 24 時間点滅し、ランプは消えますが、機能は残ります。

7) EOB D ライト (琥珀色)

エンジンプロックを示します。エンジンプロック数秒後に消灯します (約 1.8 - 2 秒)。

8) スピードメーター (km/h)

走行速度を表示します。

a) LCD (1):

- 走行距離計 (km)

総走行距離を示します。

- トリップメーター (km)

リセット後の走行距離を表示します。

9) タコメーター (rpm)

一分間のエンジン回転数を表示。

b) LCD (2):

- 時計

- オイル温度

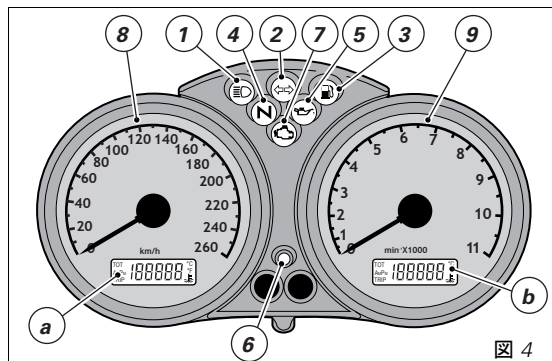


図 4

LCDユニットの機能

イグニッションキーを **ON** に回すと、メーターパネルはすべての計器（ポインター、ディスプレイ、ライト）のチェックをします（図 5、図 6）。

LCD (1) ユニットの機能

キーを **ON** の状態にし、ボタン (B, 図 6) を押すと、総走行距離とトリップメーター距離を表示することが出来ます。

トリップメーターをゼロにします。

ボタン (B, 図 6) を **TRIP**(トリップメーター) が表示されている時に 2 秒以上押し続けると、ディスプレイ (LCD 1) がゼロになります。

LCD (2) ユニットの機能

キーを **ON** の状態にし、ボタン (A, 図 6) を押すと、時計とオイル温度が表示されます。

時計の調整

ボタン (A, 図 6) を 2 秒以上押し続けます。ボタン (B, 図 6) を押し、AM/PM を調整します。ボタン (A) を押し、時の調整機能に移ります。ボタン (B) を繰り返して押し、時間を合わせます。ボタン (A) を押し、分の調整機能に移ります。ボタン (B) を押し、分数を進めます；5 秒以上押し続けると早く変わります。ボタン (A) を押し、調整機能から出ます。

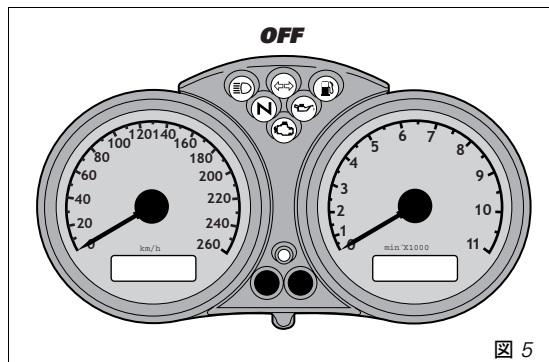


図 5

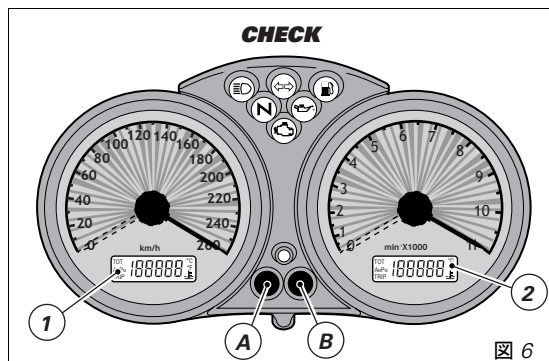
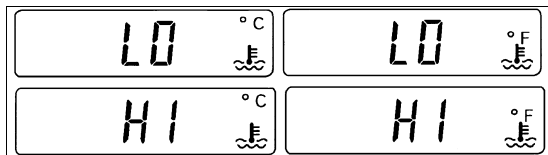


図 6

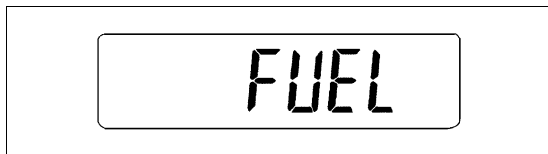
オイル温度機能

オイル温度が 50 °C/122 °F 以下の時は "LO"、170 °C/338 °F 以上の時は "HI" が表示されます。



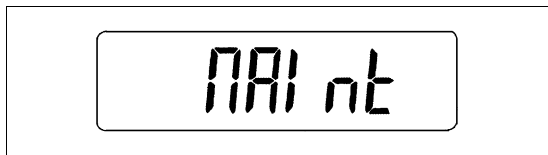
燃料残量機能ランプ

リザーブランプが点いた時にディスプレイ上には "FUEL" が表示されます。



メンテナンスインジケータ機能

最初の 1000 Km/621 mi 後、その後 10,000 Km/ 6210 mi 毎、ディスプレイにはキーを ONにするたびに 5 秒間 "MAInt" が表示され、定期的メンテナンスを行う時期であることを示します。



メーターパネルライト調整機能

キーが ON の状態でスイッチ (B, 図 6) を押すと、5 秒以内にスイッチを押すたびにメーターパネルのライトが調整されます。



警告

メーターパネルのコントロールは必ず車両が停止している時に行なって下さい。運転中にメーターパネルの操作は絶対に行わないで下さい。

イモビライザー・システム

この車両には電子制御でエンジンをブロックする盗難防止装置（イモビライザー）が搭載されています。イモビライザーは、毎回エンジンを停止する度に自動的に作動します。

各キーの握り手にはトランスポンダーが内蔵されています。トランスポンダーからの信号は、イグニッションスイッチ部に組み込まれたアンテナを介してコントロールユニットに送られます。この信号は“パスワード”の役割を果たし、イグニッションキーがスイッチに差し込まれる度に、毎回変更されます。CPUが“パスワード”によってキーを認識した時のみエンジンが始動します。

キー（図 7）

車両には、以下のキーが付属してきます：

- キー A（赤）1本
- キー B（黒）2本

警告

キー A（赤色）には、キーを最適な状態に保ち、他のキーとの接触を防ぐためゴム製のカバーが取り付けられています。本当に必要な場合以外は絶対にこのカバーを取り外さないで下さい。

キー B は、通常のイグニッションキーで下記に使用されます：

- エンジンの始動
- 燃料タンクキャップ
- シートロック

キー A はキー B と同じ機能を持つ他、2本の黒キーのコードメモリー変更、削除の機能を併せ持っています。

注意

3本のキーには、キーの認識番号の書かれたプレート(1)が付いています。

警告

キー A とプレート (1) は別にして、安全な場所に保管して下さい。

車両を始動するのに 2本の黒いキーのうち、1本のみを使用するようにしてください。

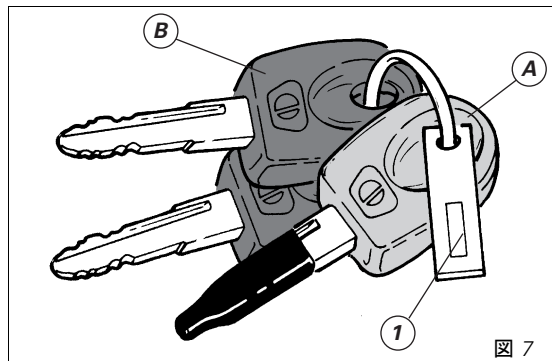


図 7

コードカード

キーと併せてコードカード (図 8) が付属してきます。カードには、キー・オン後にエンジンブロックが作動した場合に使用するエレクトロニック・コード (A, 図 9) が記載されています。



警告

コードカードは安全な場所に保管して下さい。スロットルグリップを使用してエンジン・ブロックを解除する場合に備えて、コードカードに記載されたエレクトロニック・コードを控えて、常に携帯されることをお勧めします。

イモビライザーシステムが不具合の場合に、琥珀色の EOBD ランプ (7, 図 4) で示されるエンジン・ブロック機能を解除するには、下記の手順に従ってください。

この作業はコード・カードに記載されたエレクトロニック・コードがなければ出来ません。

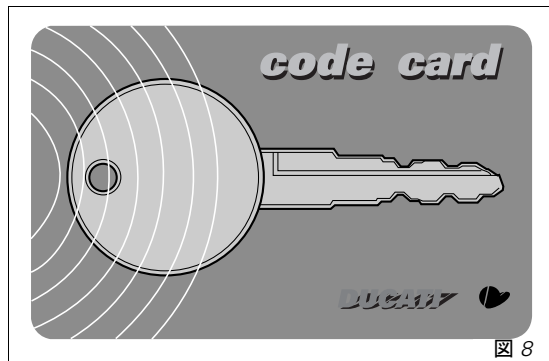


図 8



図 9

スロットルグリップを使用してイモビライザー・エンジンブロック解除の手順

1) キーを ON の位置にし、スロットルグリップを完全に回し、この状態を保ちます。

EOBD ランプ (7, 図 4) は 8 秒後に消灯します。

2) EOBD ランプが消えたらスロットルグリップを放して下さい。

3) EOBD ライトがもう一度点き、点滅します。この時点でディーラーから車両引渡しの際に渡されたコード・カードに記されているエレクトロニック・コードを入力します。

4) EOBD (7, 図 4) ランプの点滅数とコードの最初の数が一緒になるように数えます。

スロットルグリップを 2 秒間全開にし、元に戻します。一つの数字の入力がこうして認識され、EOBD ランプが 4 秒間点灯します。最後の数値を挿入するまでこの作業を繰り返します。

アクセルを使っても出来ない時は、EOBD ランプが 20 回点滅し、その後ランプが点灯し、もう一度 (1) からやり直すこととなります。

5) コードが正しく入力された場合には、スロットルグリップをはなすと EOBD ランプが点滅し、ブロックが解除されたことを示します。4 秒後にランプは通常 (消灯) の状態に戻ります。

6) 入力されたコード番号が違っていった場合、EOBD ランプは点灯し続けます。キーを OFF に戻して手順 (1) から回数に制限なく、作業をやり直すことができます。



注意

定められた時間の前にスロットルグリップが放された場合は、警告ランプが再び点灯します。キーを OFF に戻し、手順 (1) に戻って作業をやり直す必要があります。

操作

イグニッションキーを ON から OFF の位置に回す度に、イモビライザーはエンジンをロックを作動します。エンジンの始動には、キーを OFF から ON の位置に回して下さい：

1) コードが認証されると、メーターパネルのランプ (6, 図 4) が短時間点滅します。これは、イモビライザーシステムがキーのコードを認証しエンジンをロックを解除したことを意味します。START ボタン (3, 図 14. 1) を押すと、エンジンが始動します；

2) もし、ランプ (6, 図 4) または EOBD ランプ (7, 図 4) が点灯したままの場合は、コードが認証されなかったことを示します。キーを OFF の位置に戻して、再度 ON の位置に戻します。それでもエンジンが始動しない場合は、付属している他の黒キーを使い、もう一度試して下さい。

もしこの方法でもまだブロックが解除されない場合は、ドゥカティ・アシスタントサービスに御連絡下さい。

3) ランプ (6, 図 4) が点滅し続けている場合は、イモビライザーシステムがリセットされたことを (例えば、スロットルグリップを使用してのデロック作業) 意味します。キーを OFF にしてから、ON にするとインモビライザーランプは通常の機能 (1) 参照、に戻ります。

警告

強い衝撃を与えるとキーに内蔵された電子部品を損傷しますので注意してください。

作業中は常に同じキーのみを使用してください。違うキーを使用すると、システムのコード認証の妨げになる場合があります。

キーの複製

追加のキーがお入用の場合は、お持ちの全てのキーとコードカードを持ってドゥカティ・アシスタントサービスまでご依頼下さい。

ドゥカティ・アシスタントサービスは、新しいキーとお手元のキー全てを (最高 8 本まで) 再メモリーします。

ドゥカティ・アシスタントサービスは、お客様がオーナーである証明の提示を求める事がありますので、必要書類をご持参下さい。

再メモリーされなかったキーのメモリーは削除され、無効となり、エンジンを始動することはできません。



注意

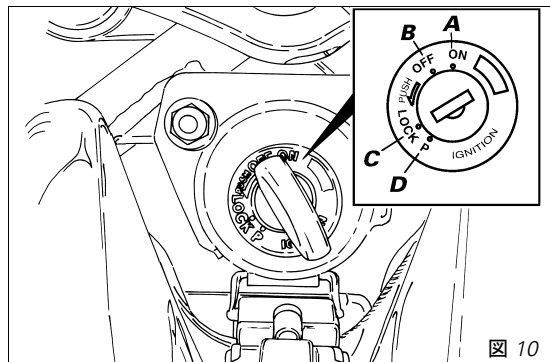
オーナー変更の場合、全てのキーとコードカードを新しいオーナーに譲り渡されなければなりません。

イグニッションスイッチ / ステアリングロック (図 10)
燃料タンクの前に配置され、4つのポジションがあります:

- A) **ON**: エンジン、ライトが作動中
- B) **OFF**: エンジン、ライト機能停止
- C) **LOCK**: ステアリングロック作動中
- D) **P**: パーキングライト+ステアリングロック

注意

キーを (C)、(D) の位置にするには、キーを押してから回して下さい。(B)、(C)、(D) の位置ではキーを引き抜くことができます。



左側スイッチ (図 11)

1) ライト切り替えスイッチ。2つのポジションがあります:

☉ = ロービーム ON

☉ = ハイビーム ON

2) スイッチ ⇄ = ウィンカーには 3つのポジションがあります:

中央 = OFF

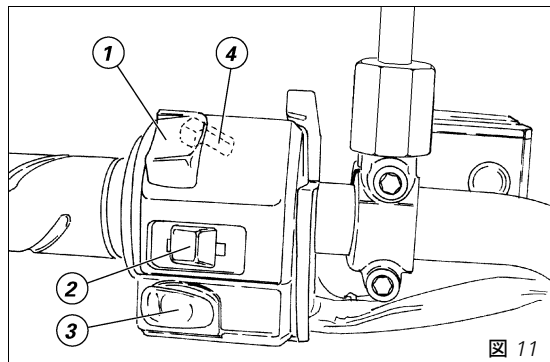
↵ = 左折

↶ = 右折

ウィンカーをとるには中央部に戻ったスイッチを一度押します。

3) スイッチ 📢 = 警告ホーン。

4) スイッチ ☉ = ハイビーム点滅。



クラッチレバー (図 12)

レバー (1) を引くと、エンジンの回転がトランスミッションおよびリアホイールに伝わらなくなります。クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。



重要

クラッチレバーを正しく操作することで、トランスミッションの損傷を避け、車両の寿命を延ばすことができます。



注意

スタンドを降ろし、トランスミッションがニュートラルの状態ではエンジンを始動させることができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いて下さい (この際サイドスタンドは降ろしません)。

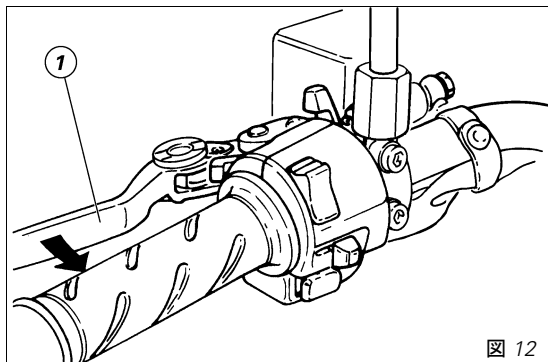


図 12

チョークレバー (図 13)

冷間時のエンジン始動を容易にするため、また、始動後のアイドリング回転数を増加させるために使用します。

レバー・ポジション：

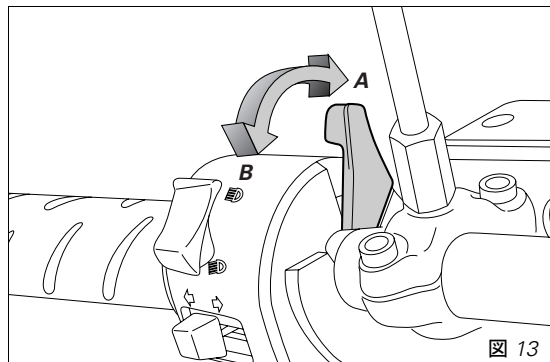
A) = 閉じた状態；

B) = 全開。

レバーの位置は、エンジンの暖機状態に合わせて調整可能です (34 ページ参照)。

● 重要

エンジンが暖かい時にはレバーを使用しないで下さい。レバーを開いたまま走行しないで下さい。



右側スイッチ (図 14.1)

1) **ENGINE STOP** (エンジン停止)スイッチには2つのポジションがあります:

○ (**RUN**) = エンジン作動

⊗ (**OFF**) = エンジン停止



警告

このスイッチは、エンジンを直ちに停止させなければならない緊急時等に使用することを目的としています。エンジン停止後は、再始動ができるようにスイッチを ○のポジションに戻して下さい。



重要

ライトを点灯して走行時、スイッチ (1) を使用してエンジンを停止しイグニッション・キーを **ON** のポジションで放置すると、ライトが点灯したままとなり、バッテリー切れの原因になります。

2) ボタン ⊗ = エンジン始動。

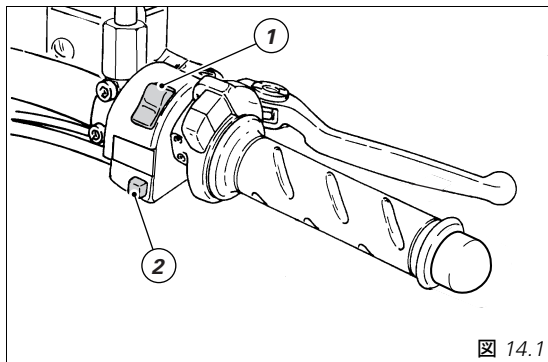
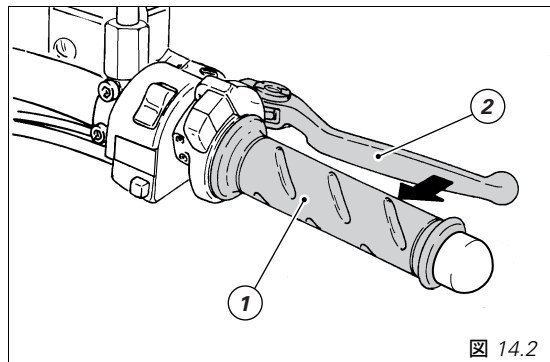


図 14.1

スロットル・ツイストグリップ (図 14.2)

ハンドルバー右側のスロットルグリップ (1) は、スロットル・バルブを操作します。グリップの握りを緩めると、自動的に元の位置 (アイドリング状態) に戻ります。



フロント・ブレーキ・レバー (図 14.2)

フロント・ブレーキレバー (2) をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで充分です。

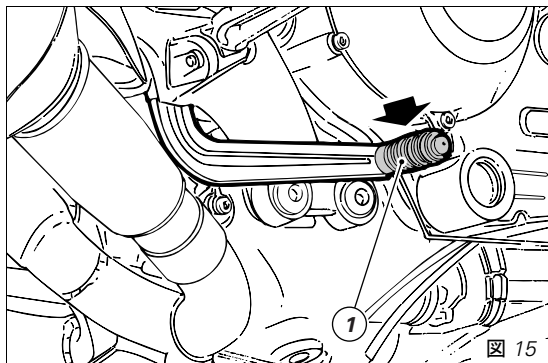


警告

このレバーを操作する前に、36 ページの説明をお読み下さい。

リアブレーキ・ペダル (図 15)

ペダル (1) を下に踏むことで、リアブレーキが機能します。システムは油圧式で作動します。



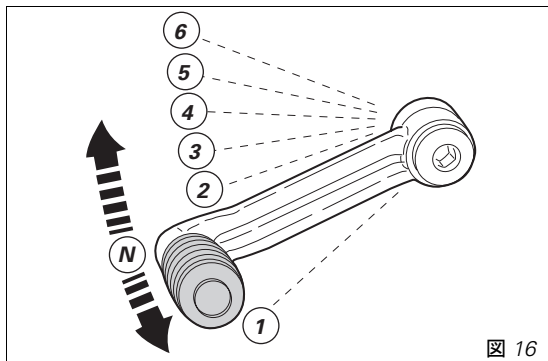
ギアチェンジペダル (図 16)

ギアシフトペダルは、上下に動き、中央のニュートラルのポジション **N** に自動的に戻ります：

下へ＝シフトダウンおよび 1 速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時に、メーターパネルの **N** ランプが消えます；

上へ＝ペダルを上へ掻き上げることで、2 速から順次 3、4、5、6 速へとチェンジします。

一回の操作が一速分のチェンジに相当します。



ギアシフトペダルとリアブレーキペダルの位置調整

ギアシフト・ペダルとリアブレーキ・ペダルのポジションは、それぞれのライダーのライディングスタイルとフットレストの位置に合わせて調整することができます。

ギアシフト・ペダルのポジションは次の手順で調整します：

リンケージ(1)を固定しながら、ナット(2)と(3)を緩めます。



注意

ナット(2)は、逆ネジになっています。

ギアシフト・ペダルを好みの位置に定めながら、スパナでリンケージ(1)の六角部分を回します。

リンケージの両端をナットで締めこみ固定します。

リアブレーキ・ペダルの調整は以下の手順で行います：

ナット(4)を緩めます。

ペダルが好みの位置になるまで、アジャスター(5)を回します。

ナット(4)を締めこみます。

ペダルを手で押しながら、ブレーキがかかり始めるまでに約1,5～2 mmの遊びがあるかを確認します。

もしも上記のような遊びが確認できない場合、マスターシリンダー・ロッドの長さを次の手順で調整します：

ロッドの上にあるナット(6)を緩めます。

フォーク(7)のロッドの遊びを増したい場合は締めこみ、逆に減らしたい場合は緩めます。

ナット(6)を締め、ロッドを固定し再度遊びを確認します。

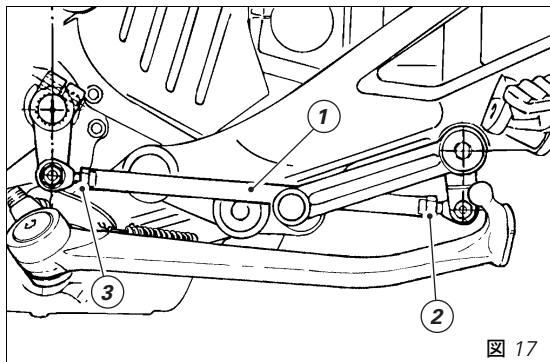


図 17

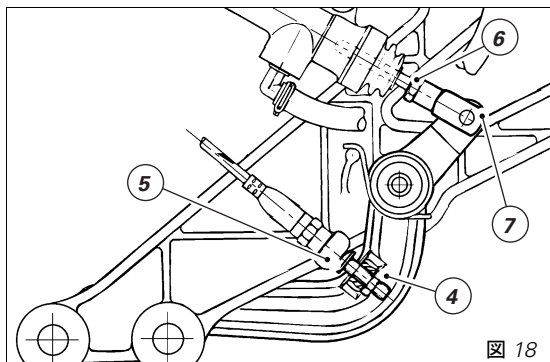


図 18

主要構成部品 / 装備

車両上のポジション (図 19)

- 1) 燃料タンクキャップ
- 2) シートロック
- 3) ヘルメット携帯ベルト用ボルト
- 4) パッセンジャー用ハンドルバー
- 5) サイドスタンド
- 6) サイドミラー
- 7) リアショック・アジャスター
- 8) タンク持ち上げ用リンケージ
- 9) シートカバー (400DARK モデル以外)
- 10) タンク固定レバー
- 11) 触媒システム

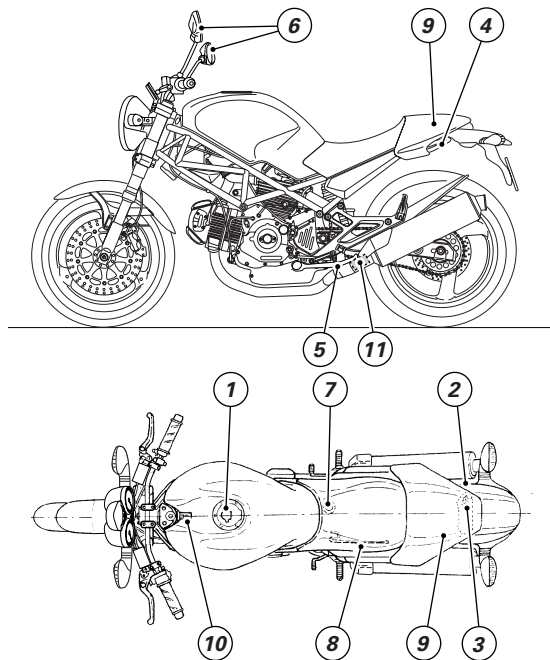


図 19

燃料タンクキャップ (図 20)

開け方

キャップの保護カバー(1)を起し、イグニッション・キーを差し込み、時計回りに 1/4 回転してロックを解除すれば、キャップを開けることができます。キャップを持ち上げて下さい。

閉め方

キーの差し込まれたキャップを押して閉じ、キーを反時計回りに回して、元の位置に戻してから抜き取ります。保護カバー(1)を閉めます。



注意

キャップはキーが差し込まれていないと閉まりません。



警告

燃料補給 (38 ページ参照) 後は毎回、キャップが正しい位置で確実に閉まっていることを確かめて下さい。

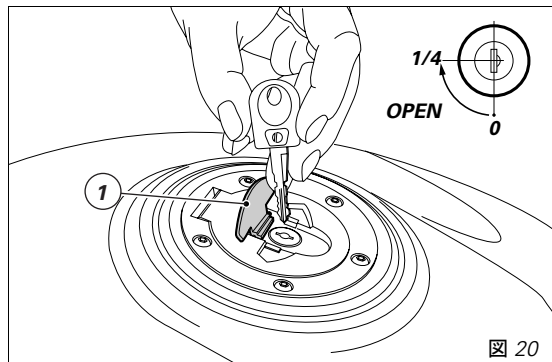


図 20

シートロック / ヘルメットフック

開け方

鍵穴にキーを差し込み、シートがフレームから外れるまで時計方向に回します。シートを後方に引き、前方ホルダーから引き抜きます。

シート下後方に、ライダー / パッセンジャーのヘルメット固定用ケーブル (1) があります (40 ページ参照)。ケーブルをヘルメットに通してから、その端をピン (2) に付け、ヘルメットを外部に吊り下げ、シートを取り付けて下さい。



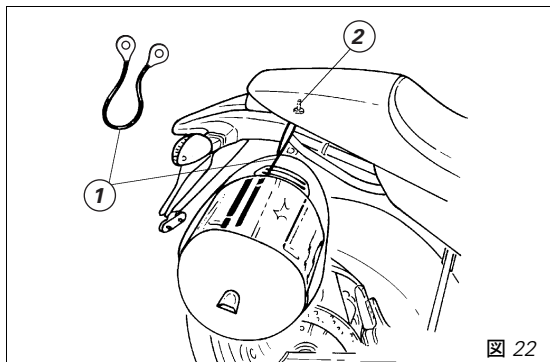
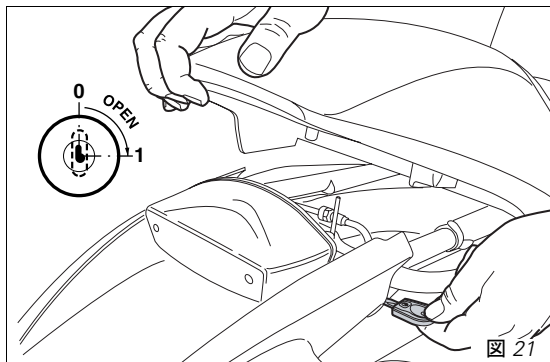
警告

このヘルメットフックは、車両を駐車する時のみ使用して下さい。ヘルメットをフックにつけたまま走行すると、ステアリングに影響し転倒の危険性があります。

閉め方

シート下小物入れ内の全ての物が正しく整理されているか確かめて下さい。シートの先端部を前方ホルダーに差し込み、シート後部をカチッと音がするまで押して下さい。

シートがしっかりフレームに固定されている事を確認し、キーをロックから抜き取ります。



サイドスタンド (図 23)

重要

サイドスタンドを使用する前に、地面が適しているか、平らであるかを確認して下さい。

軟らかい地面、砂利、直射日光により加熱され軟らかくなったアスファルト地、などはスタンドを使って停車している車両の転倒の原因となります。

傾斜面に停車する場合は、常にリアホイールが斜面の低い方に向くようにして下さい。

サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながら、スタンドのフック (1) を足でいっばいに押します。次に、スタンドがしっかりと路面に着くまで、車体を徐々に傾けていきます。

警告

サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないで下さい。

サイドスタンドを元の位置 (水平位置) に戻すには、車両を右側に傾けながら、足でフック (1) を持ち上げます。

注意

定期的スタンド (内側と外側 2 つのスプリングの損傷と摩耗) と安全センサー (2) の作動を点検することをお勧めします。

注意

スタンドを降ろし、トランスミッションがニュートラルの状態エンジンを開始させることができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いて下さい (この際サイドスタンドは降ろしません)。

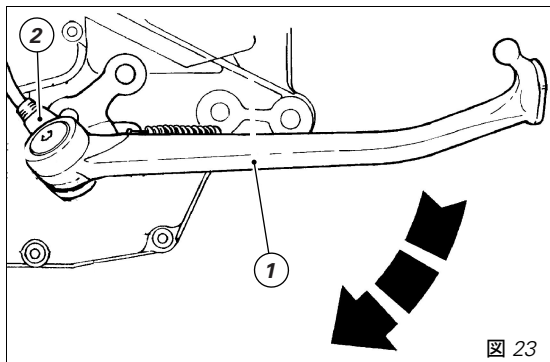


図 23

リアショック・アジャスターの調整

リアショック・アブソーバーは荷重に合わせて調整できる
よう外部アジャスターを装備しています。

アジャスター (1) は、スイングアームのショックアブソー
バー固定位置の下部、右側に配置され、拡張 (リバウンド)
) の時点で油圧ブレーキを調節します。

時計回り方向にアジャスター (1) を回すとダンピングが強
くなり **H**、反対方向 **S** に回すと弱くなります。

標準設定：

アジャスター (1) が完全に閉まっている状態から 18 段 (時
計回り) に緩めます。

アブソーバー上部の 2 個のリングナット (2) は、外部スプ
リング・プリロードの調整に使用します。

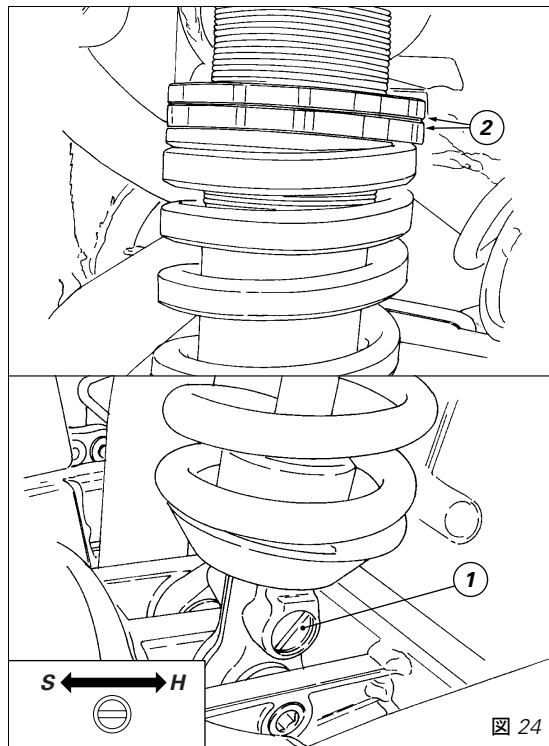
スプリング・プリロードを変更するには、上部リングナツ
トを回します。下部リングナットを締める か緩めるで プ
リロードが強くなる か弱く なります。

アブソーバー上のスプリングプリロードの標準の長さ：
157 mm.



警告

アジャスターのリングナットを回すにはサイズに
合ったレンチを使用してください。調整中にレンチが
ナットの溝から外れると、手を車体に強くぶつけ、怪我を
する恐れがあるのでよく注意して下さい。





警告

ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となります。

パッセンジャーと荷物を乗せて走行する際には、スプリング・プリロードを最大に設定すれば、路面からの影響を受けにくくなり、走行安定性が増します。この場合には、リバウンド・ダンピングの再調整が必要になることがあります。

運転のしかた

慣らし運転の方法

慣らし運転時の最高速度 (図 25)

慣らし運転期間中の最高許容回転数：

- 1) 1000 km まで
- 2) 1000 ~ 2500 km まで

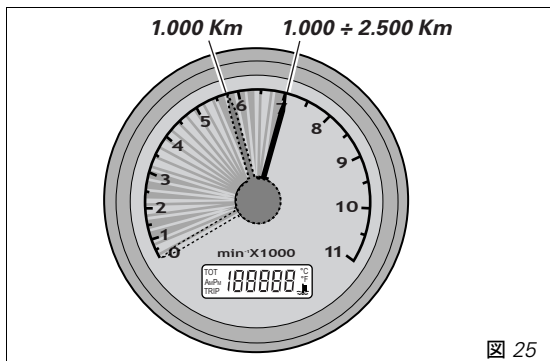


図 25

1000 km まで

最初の 1000 km までは、タコメーターに注意し、5.500 ~ 6.000 回転 (rpm) を決して超えてはいけません。

最初の数時間は、制限された回転数の範囲内でエンジンの負荷と回転数をさまざまに変えることをお勧めします。

このために、エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしは、カーブの多い、起伏に富んだ場所を走行することが理想的です。

最初の 100 km は、ブレーキディスクに対してパッドの摩擦材を適切に慣らすために、優しくブレーキをかけ、急なブレーキや長い間ブレーキをかけることは避けて下さい。車両全ての機械部分を互いに馴染ませるため、また、エンジンの主要部分の寿命に悪影響が出ないように、乱暴な加速と、特に上り坂での長時間の高速回転は避けて下さい。定期的にチェーンを点検し、必要があれば潤滑して下さい。

1000 ~ 2500 km まで

この間、エンジンからよりパワーを引き出す事も可能ですが、回転数 7000rpm を決して超えないようにして下さい。



重要

慣らしの期間中は、当マニュアルに指定された点検、整備を必ず受けて下さい。これは保証の必須条件で、この条件が順守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については *Ducati* モーター・ホールディング社はいかなる責任も負いません。

慣らし運転の方法を遵守することでエンジンの寿命を延ばし、調整、オーバーホールの回数を減らすことが可能です。

走行前のチェック



警告

走行前にこれらの点検を怠った場合、車両に損傷を与え、ライダー、及びパッセンジャーがケガをする恐れがあります。

走行前に以下の点検を実施して下さい：

タンク内の燃料残量

タンク内燃料の残量を確認して下さい。必要であれば給油して下さい (38 ページ参照)。

エンジンオイル量

エンジンオイル量をクランクケースの点検窓からチェックしてください。

必要であれば指定オイルを補充して下さい (56 ページ参照)。

ブレーキ、クラッチ液量

各リザーバータンクの液量を確認して下さい。

タイヤコンディション

空気圧と摩耗度を確認して下さい (54 ページ参照)。

操作系

ブレーキ、クラッチ、アクセル、ギアチェンジの作動を確認します。

ライト、インジケーター

ライト、インジケーター、ホーンが適切に作動するか確認します。電球が切れている場合には交換して下さい (50 ページ参照)。

各ロック

燃料タンクのキャップ、シート、のロックが確実に閉じているか確認して下さい。

スタンド

サイドスタンド (29 ページ参照) がスムーズに作動し、適切な位置にあるかをチェックして下さい。



警告

もし不備な点がある場合には、車両の使用を中止し、*Ducati* 正規ディーラーにご連絡下さい。


エンジンの始動

注意
暖機されたエンジンを始動する場合には高い気温での始動の方法に従ってください。

警告
エンジンを始動する前に、走行に必要な操作系の取り扱いに慣れておいて下さい。

常温での始動

(10 °C/50 °F ~ 35 °C/95°F) :

1) イグニッション・キーを **ON** の位置にします (図 26)。緑のランプ **N** と赤のランプ  が点いている事を確認してください。

重要
オイルプレッシャー・インジケータはエンジン始動後、数秒で消えなければなりません (11 ページ参照)。

警告
サイドスタンドは完全に上がっていないと (水平位置) 安全センサーが作動して始動できません。

注意
スタンドを降ろし、トランスミッションがニュートラルの状態 でエンジンを始動させることができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いて下さい (この際サイドスタンドは降ろしません)。

2) チョークレバーを (B, 図 28) のポジションにします。
3) エンジン停止スイッチ (1, 図 27) が **○ (RUN)** の位置になっていることを確認し、始動ボタン (2, 図 27) を押しませ

ず。
このモデルにはワンタッチスターターが装備されています。この機能によりボタン (2) をすぐ放してもエンジンのワンタッチ始動が可能です。ボタン (2) を押した時点からエンジン作動までの間隔はエンジンの温度によって違いがでます。エンジンが作動している時、このシステムはエンジン始動のドライブを妨げます。エンジンが始動しなかった場合には、2 秒ほど待ってからボタン (2) をもう一度押し直して下さい。

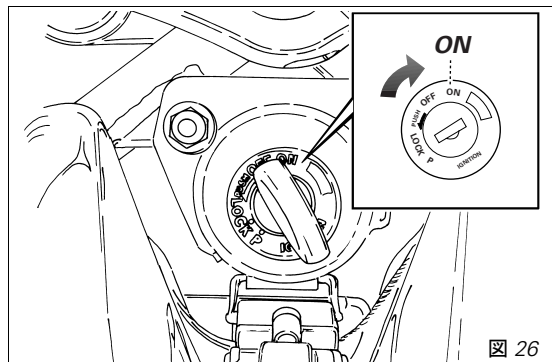


図 26

スロットルグリップを回さず、自動的に始動させて下さい。

注意

バッテリーが切れているとエンジン始動システムが自動的に動かなくなります。

4) 約 1400~1500回転 (rpm) のアイドリング回転数を得るために、チョークレバーを垂直方向 (A) に少し戻します。

重要

エンジンが冷たい間は回転数を上げ過ぎないで下さい。潤滑が必要な全ての部分にオイルを行き渡らせるために、エンジンが温まるのを待ってください。

5) エンジンが温まっていく過程とともに徐々にスターターレバーを垂直な位置にもって行きます (A, 図 28)。エンジンが十分に暖まった時点で、チョークレバーを完全に閉まった状態にし、アイドリングを保たなければなりません。

高外気温での始動 (35 °C/95 °F 以上) :

チョークは使わずに、“常温での始動”と同じ手順で行います。

低い気温での始動 (10 °C/50 °F 以下) :

“常温での始動”と同じ手順で行いますが、エンジンのウォームアップ (5) を 5 分間行って下さい。

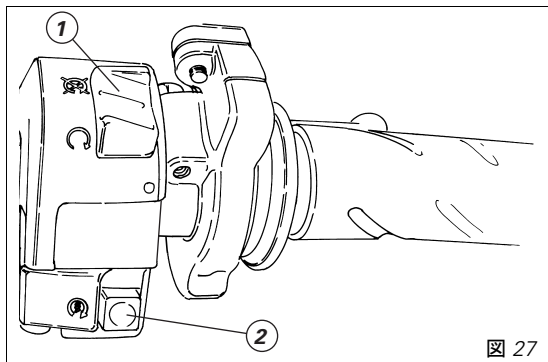


図 27

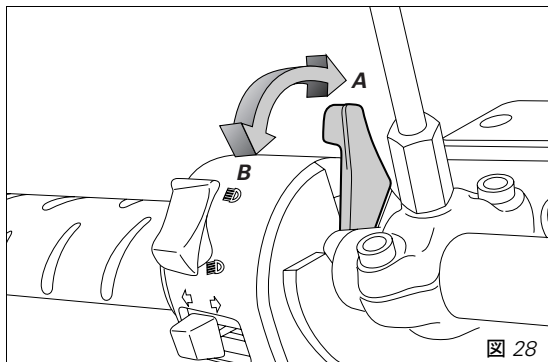


図 28

車両の発進

- 1) クラッチレバーを引いてクラッチを切ります。
 - 2) 1 速に変速するためにギアシフトペダルをつま先でしっかり押し下げます。
 - 3) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々につなぐと、車両はゆっくり動き出します。
 - 4) クラッチレバーを完全に離しエンジンの回転数を上げます。
 - 5) シフトアップするには、エンジン回転を落とすためにスロットルを戻し、クラッチを切り、ギアシフトペダルをかき上げ、クラッチをつなぎます。
シフトダウンするには、スロットルグリップを戻し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチをつなぎます。
- 操作類は適切に素早く操作しなければなりません。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたらすぐにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けて下さい。



重要

キャブレターのオーバーフローやトランスミッションのスナッチを招く激しい加速操作は避けて下さい。ギアを変速した後もクラッチレバーを引いたままでいると、機械部分の過熱や摩擦部分の異常な摩耗を引き起こします。

ブレーキング

減速するには、最初にスロットルグリップを戻してエンジンブレーキをかけ、それからブレーキングします。エンジンが急に止まるのを防ぐため、車両が停止する前に、クラッチを切ります。



警告

レバーとペダルの内、片方しか使用しなかった場合、ブレーキ効果が低下します。

ブレーキを強く、または乱暴にかけるとホイールがロックされ、車両のコントロールを失う原因になります。

雨中を走行する際や、滑りやすい路面上ではブレーキ能力が著しく低下します。こういったコンディションでは慎重かつ優しいブレーキ操作をするように心がけて下さい。急ブレーキは車両のコントロールを失わせる危険があります。

長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用します。ブレーキは断続的に短時間だけ使用して下さい。ブレーキの長時間にわたる連続的使用は、摩耗材の過熱を招き、ブレーキ能力の著しい低下の原因となります。

指定空気圧値以下のタイヤはブレーキ能力を低下させるとともに摩耗を早め、また運転の的確さと、カーブでの安定を欠きます。

車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は徐々にスピードを落とし始めます。

シフトダウンしながらクラッチをつないでいき、最後に1速からニュートラルに入れます。ブレーキをかけると、車両を完全に停止させることができます。エンジンを停止させるには、キーを **OFF** (18 ページ) の位置に回します。



重要

電装部分に損傷を招くので、エンジン停止中には絶対にイグニッション・キーを **ON** の位置にしたままにしないで下さい。

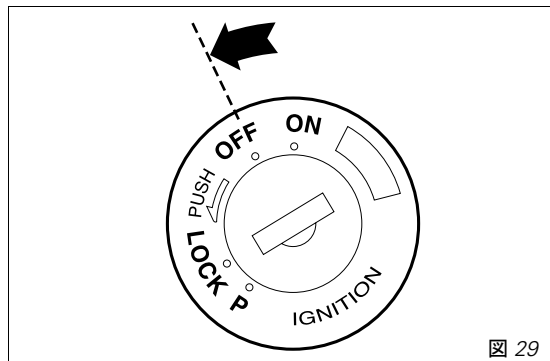


図 29

燃料補給

給油の際、入れすぎないように注意してください。燃料は給油口の下縁をこえてはいけません (図 30)。



警告

鉛の含有率が低いオクタン価が95以上の無鉛ガソリンを使用して下さい。

給油口の上部に燃料が溜まってないことを確認して下さい。

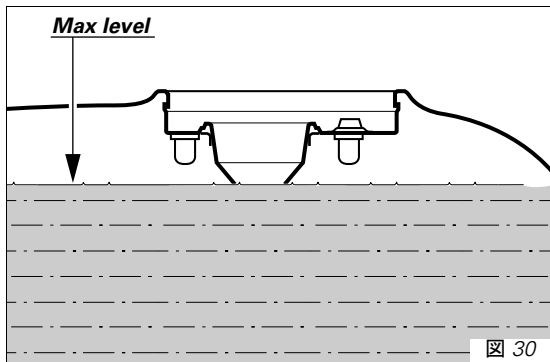


図 30

パーキング

停止させた車両をサイドスタンドを使い駐車します (29ページ参照)。

盗難防止のため、ハンドルを左に振りきり、キーを **LOCK** の位置にします。

車両をガレージ、その他の建物内に駐車する際には、換気が充分で、車両の近くに熱源が無いことを確認して下さい。

必要な場合には、車両を認識しやすいようにイグニッション・キーを **P** の位置に回し、パーキングライトを点灯しておくことができます。

重要

このスイッチを長い間 **P** の位置に放置しておく、と、バッテリー切れの原因になります。監視できない場所にキーを付けたままで車両を駐車しないで下さい。

警告

エキゾーストシステムは、エンジンスイッチを切った後も熱い場合があります。手を触れないよう充分注意し、車両を木材、木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにして下さい。

警告

発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック (ディスク・ロック、ホイールロック等) は大変危険で、車両の機能とライダーおよびパッセンジャーの安全をおびやかす恐れがあります。

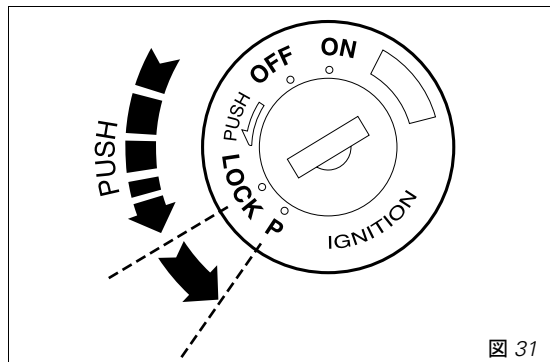


図 31

アクセサリ (図 32)

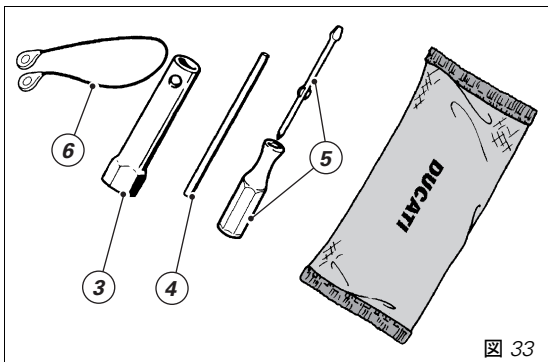
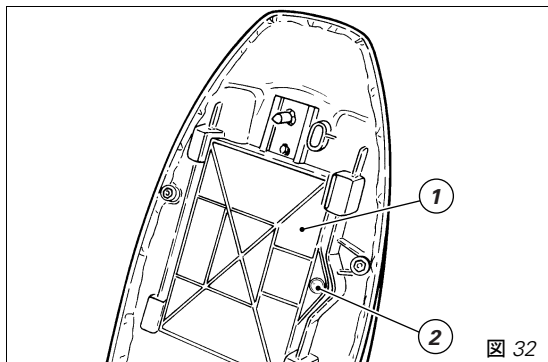
シート下の小物入れには以下の物が装備されています：
オーナーズ・マニュアル；
ヘルメット固定用ケーブル；
車両の簡単な点検、整備をするためのレンチと工具の入ったツールバッグ。

この小物入れはシートを取り外し (28 ページ参照)、硬貨でネジ (2) を緩め、カバー (1) を外して開けます。

ツールケース (図 33)

内容：

- 3) スパークプラグ用六角レンチ
- 4) スパークプラグレンチ用ボルト
- 5) ダブルスクレイドライバー
- 6) ヘルメット固定用ケーブル



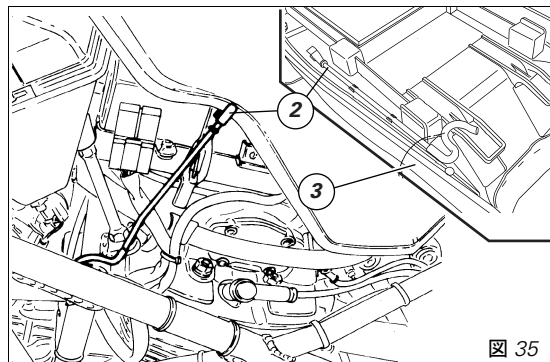
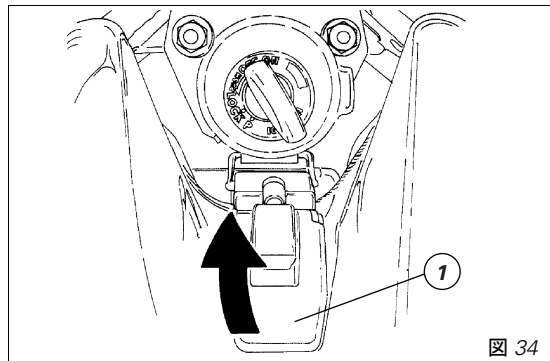
主な整備作業とメンテナンス

燃料タンクの持ち上げ (図 34)

⚠ 警告
燃料タンクキャップから燃料が漏れるのを防ぐため、この作業をする時はタンク内残量が 5 リットル以下でなければなりません。

シートを外し (28 ページ参照)、フック (1) を上げます。
タンクを持ち上げサポートロッド (2、図 35) をシート下から外します。
タンクをサポートロッド上に置きます。
取り付けの際は取り外し作業を逆順に行ってください。

⚠ 警告
タンクを下げる際にはホースなどが挟まらないように気をつけて配置するようにして下さい。

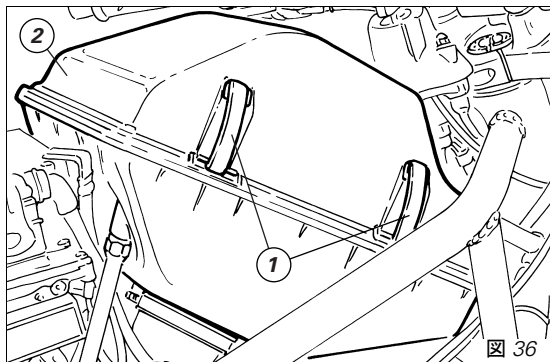


エアフィルターの交換

エアフィルターは、定期点検表で指定された一定期間毎に必ず交換して下さい（保証書参照）。フィルターボックスは燃料タンクを持ち上げた後、以下の手順で実施します（41ページ参照）。

フィルターボックス両側のカバークリップ（1）を外し、カバー（2、図 36）を取り外します。

エアフィルター・カートリッジ（3、図 37）を取り出し、新しいものと交換します。

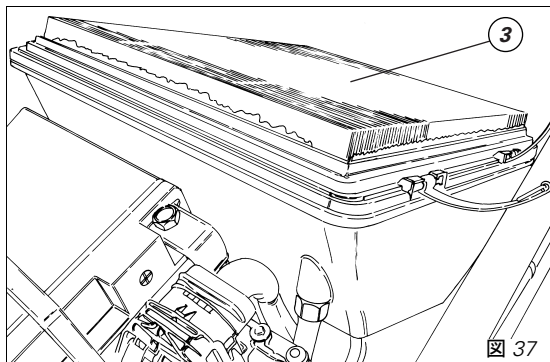


重要

詰まったフィルターは吸気能力を減少させ、燃費を悪くし、エンジン出力の低下とスパークプラグの汚れを招きます。

また、異物を吸引するとエンジンに損傷を引き起こすので、エアフィルターなしでは車両を使用しないで下さい。

エアフィルターを図に示されるように正しく取り付け、取り外した全てのパーツを正しく元の様に取りつけて下さい。



重要

特に埃や湿気が多い環境では、点検表に指示された間隔よりも頻りにフィルターを交換して下さい保証書参照。

ブレーキ / クラッチ液量のチェック (図 38)

ブレーキ、クラッチ液面のレベルは、絶対に各リザーバータンクの **MIN** 目盛り以下になってはいけません。

液体レベルが下がりすぎると、回路内にエアが混入し、システム作動に悪影響を及ぼします。

また、定期点検表に指示されたブレーキ / クラッチ液補充及び交換は、正規ディーラーの修理工場に依頼して下さい (保証書参照)。

重要

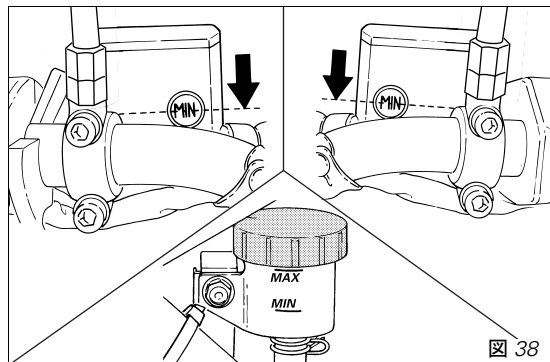
ブレーキ、クラッチチューブは 全て 4 年毎に交換して下さい。

クラッチシステム

クラッチレバーに過度の遊びがあり、ギアチェンジの際クラッチにスナッチやジャダーが出る場合は、システム内にエアが混入しています。システムを点検しエアを排出する必要があります。Ducati 正規ディーラーにご連絡下さい。

警告

クラッチ液レベルはタンク内で、クラッチ・ディスクの磨耗にしたがって上昇しやすい性質を持っています。既定のレベルを超えないで下さい (最小レベルから 3 mm 上)。



ブレーキシステム

ブレーキパッドが減っていないのに、ブレーキレバー、ブレーキペダルの過度の遊びに気付いた場合には、システムを点検しエアを排出する必要があるため、*Ducati* 正規ディーラーにご連絡下さい。



警告

ブレーキ / クラッチ液はプラスチックの塗装部分に損傷を与えますので、こぼさないようにして下さい。これらの液体は腐食性で傷損害を与える恐れがあります。異なった品質のオイルを混ぜないで下さい。ガスケットの状態をチェックしてください。

ブレーキパッドの摩耗チェック (図 39)

フロントブレーキ

ブレーキパッドには摩耗チェックマークがあり、キャリアからパッドを外すことなく、容易にチェックできます。摩耗材に刻まれた溝が見えているうちはパッドの通常使用範囲です。

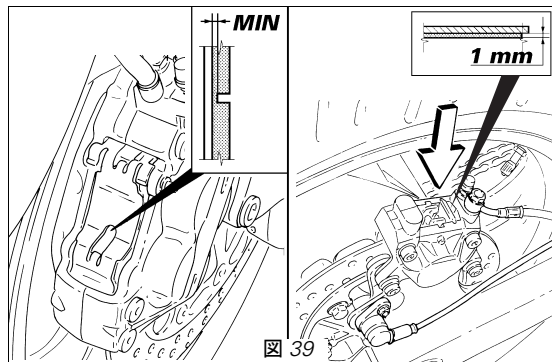
リアブレーキ

ブレーキパッドは、磨耗面が両方とも最低 1 mm の厚さがなければなりません。



重要

ブレーキパッドの交換は *Ducati* 正規ディーラーで実施して下さい。

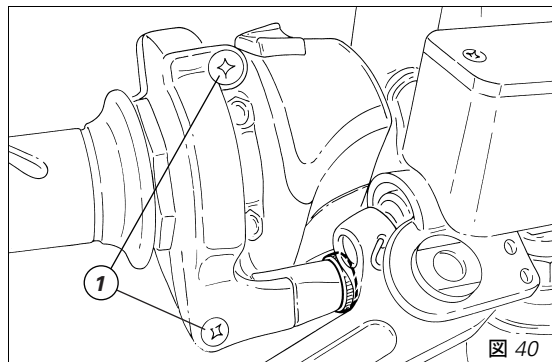


接続部の潤滑

スロットルおよびチョークレバーワイヤーは定期的に被膜の状態をチェックしなければなりません。外側プラスチック被膜に亀裂や押し潰された跡があってははいけません。操作類を動かして、被膜の中でワイヤーがスムーズに動くか確認して下さい。もし何らかの抵抗や、動きにくい箇所がある場合には、Ducati 正規ディーラーでワイヤーケーブルを交換して下さい。

この様な不具合を避けるためには、ワイヤーの両端に、一定期間毎に指定 *SHELL Advance Grease* か *Retinax LX2* を使用し潤滑してください。

スロットルケーブルについては、2本の固定ネジ (1, 図 40) を外して開け、ワイヤーの端とプーリーをグリースアップするのが最良の方法です。



警告

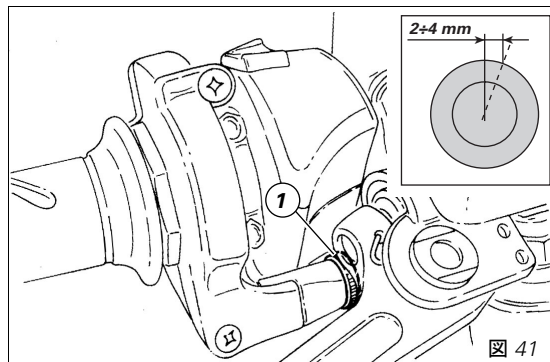
プーリーの中にケーブルを入れ、注意しながらスロットルを閉めます。

カバーを付け、ネジ(1)を1,8 Nmのトルクで締め付けます。

サイドスタンドのスムーズな作動を確保するために、汚れを取り除き、全ての可動部分に指定のグリース *SHELL Alvania R3* を塗布して下さい。

スロットケーブルの調整

スロットレグリップはハンドルがどの位置にあってもグリップ一定の遊びが 2 ~ 4 mm でないといけません。調整が必要な場合はグリップにあるアジャスター (1, 図 41) を使って調整してください。



バッテリーの充電 (図 42)

バッテリーを充電する際には、バッテリーを車両から取り外して実施して下さい。

常に黒のマイナス端子 (-) を最初に外し、続いて赤のプラス端子 (+) を外します。

留め金 (1) を外し、バッテリーを取り外します。

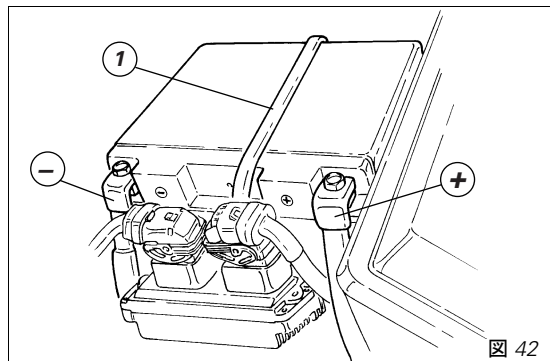
警告 バッテリーは可燃性のガスを発生します。火気、熱源のそばに置かないで下さい。

充電は換気の良い場所で行って下さい。
チャージャーのジャックを電極に接続します。赤をプラス極 (+) に、黒をマイナス極 (-) に接続して下さい。

重要 ジャックを電極に接続する際に火花がスパークし、セル内の可燃性ガスに引火する危険があるので、バッテリーへ接続する時は、チャージャーの電源が入っていないことを確認して下さい。
接続は常に赤の+極から行って下さい。

警告 バッテリーは幼児の手の届かないところに置いて下さい。

バッテリーを 1A で 5 ~ 10 時間充電します。



トランスミッションチェーン張力の調整

チェーンが一番引っ張られた状態になるまで、リアホイールをゆっくりと回します。

サイドスタンドを立てた状態で、フォーク中央部のチェーンを指で押し上げて測定します。チェーンの一番下がっている部分でのたわみが、(図 43)

22 mm ~ 27 mm になっているかどうか確認して下さい。張力の調整はホイールのピンのナット (1, 図 44) を緩めます。フォーク両端のスクリュー (2) を同等分だけ締めて (時計回りに回す) テンションを強めるか、緩めて弱めるかしてテンションを調整します。張力を弱める場合には、ホイールを前方に押さなければなりません。

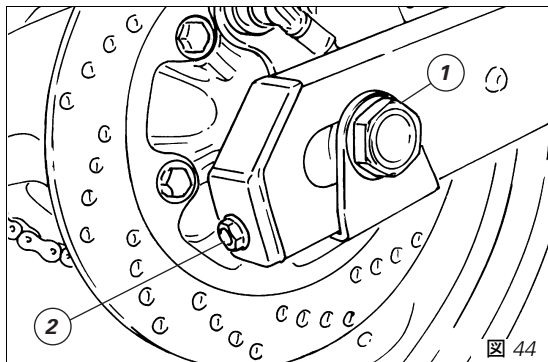
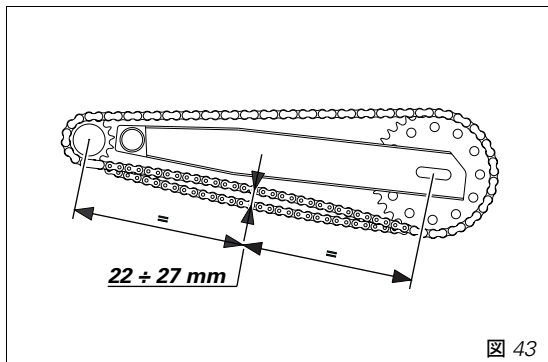
重要

不適切なチェーンの張りは、トランスミッション部品の磨耗を促進させます。

フォーク両側の位置マークが一致しているかどうかを確認して下さい; これですべてのホイール・アライメントを確保できます。

SHELL Retinax HDX2 でグリスアップされた、ナット (1) を規定トルク 72Nm で締め付けます。

SHELL Alvania R3 でグリスアップされた調整スクリュー (2) を指定トルク 8 Nm で締め付けます。



トランスミッションチェーンの潤滑

この車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑をより保つ0リングシールの付いたチェーンが装備されています。

チェーンを洗浄する場合には損傷を防ぐため、0リングシールの損傷を防止するため、専用の溶剤を使用して下さい。ウォッシャー等でスチームや圧力のかかった水で洗浄しないで下さい。

洗浄後は、コンプレッションエアでチェーンを乾かし、指定の *SHELL Advance Chain* もしくは *Advance Teflon Chain* にて潤滑します。

重要

指定オイル以外を塗布した場合には、チェーン、フロント / リアスプロケットに損傷を与える可能性があります。

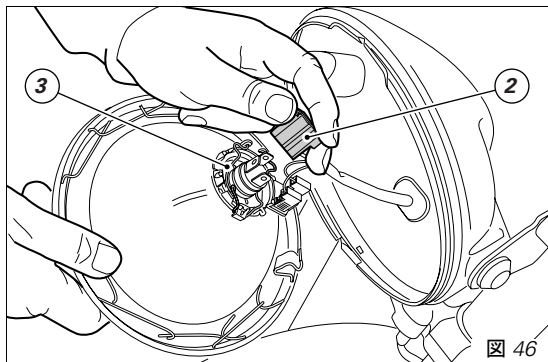
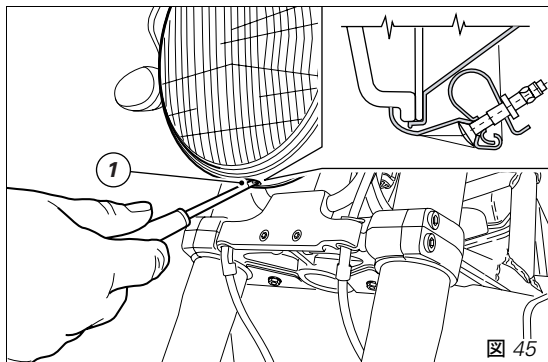
電球の交換

切れた電球を交換する前に、新しい電球が 67 ページの電装表の各仕様に適合しているか確認して下さい。

ヘッドライト (図 45, 図 46, 図 47, 図 48)

ヘッドライトの電球を交換するには、まず本体に枠、パラボラを固定している下部のネジ (1) を緩めます。

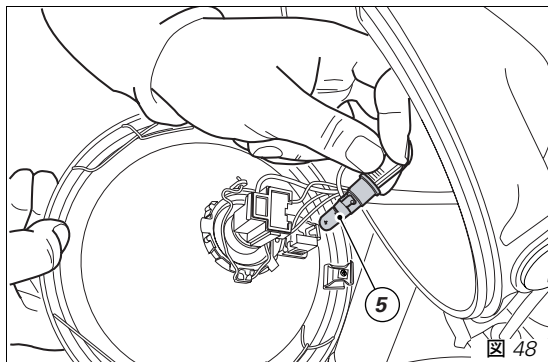
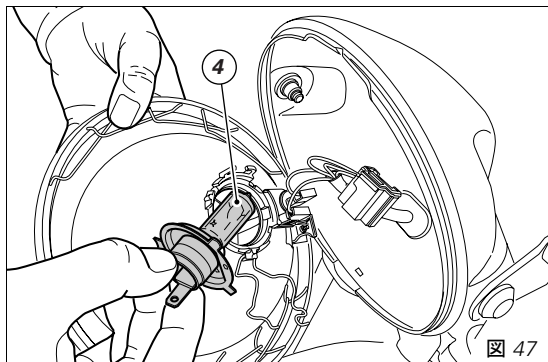
ヘッドライトの電球からコネクター (2, 図 46) 外します。電球を押さえているクリップ (3, 図 46) を外し、サポートから取り除きます。



電球 (4) を交換します。

注意
ガラスの部分には、絶対に指で触れないで下さい。電球の高度が落ちる原因となります。
正しい光軸角度にするために、ホルダーのガイドに沿って電球のベースを差し込みます。
クリップ (3, 図 46) の端部をヘッドライト本体サポートにはめます。ケーブルをつなぎます。

パーキングライトの電球を交換するには、コネクタを外してください。電球 (5) はバイヨネットベース・タイプなので、取り外すには押しながら反時計回りに回します。交換した新しい電球は、押しながら時計回りにカチッという音がするまで回して取り付けます。コネクタにつなぎ、枠、パラボラに固定します。



ウインカー (図 49)

ねじ (1)を外し、ランプカバー (2)とウインカーのボディを別々にします。

電球はバイヨネットベース・タイプなので、取り外すには押しながら反時計回りに回します。交換した新しい電球は、押しながら時計回りにカチッという音がするまで回して取り付けます。ボディの-slotにランプカバーのツメ (A)を差し込みます。

スクリュー (1)を締めます。

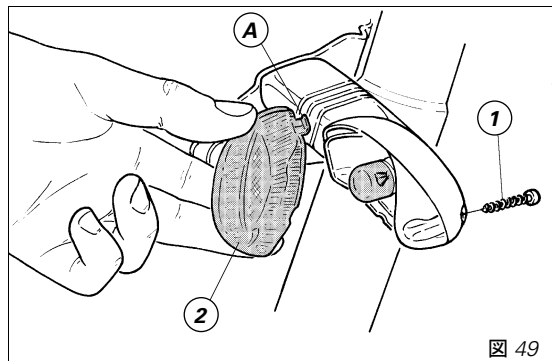


図 49

ストップライト (図 50)

ストップライトとパーキングライトの電球を交換するには、レンズ (2)を固定している2本のスクリュー (1)を緩め、レンズを取り外します。電球はバイヨネットベース・タイプなので、取り外すには押しながら反時計回りに回します。交換した新しい電球は、押しながら時計回りにカチッという音がするまで回して取り付けます。レンズを取り付けてください。

ナンバープレートライト (図 50)

ナンバープレートライト (3)の電球はソケットごと内部から抜き取り、電球を外し、交換します。

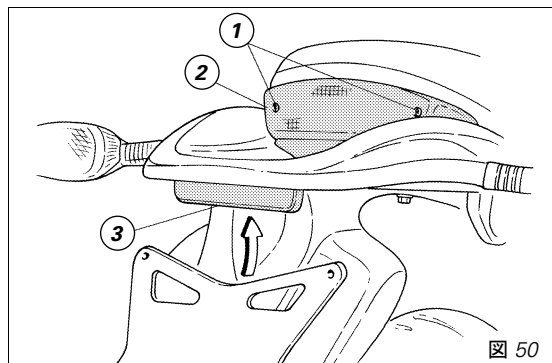


図 50

ヘッドライトの光軸調節 (図 51)

ヘッドライトの光軸をチェックするには、適正な空気圧のタイヤの車両にライダーがまたがり、垂直に保ち、縦軸に対して正しい角度を保持します。車両は壁またはスクリーンから 10 m の距離に置きます。壁にヘッドライトの中心と同じ高さで水平に線を引き、また車体の縦軸に一致する垂直線も引きます。

この作業はできれば薄明時に実施して下さい。

ロービームを点灯します：

光の照射範囲の高さが (照射された部分と明るい部分との境界の上限)、地上からヘッドライトの中心までの高さの $\frac{9}{10}$ 以下でなければなりません。



注意

この方法は、イタリアの基準で制定された照射角度に準拠したものです。

イタリア以外の国での使用は、それぞれの国で法律に従い調節してください。

ヘッドライトの光軸垂直方向調節には、まずサイドサポートを固定しているネジ (1, 図 52) を緩めます。

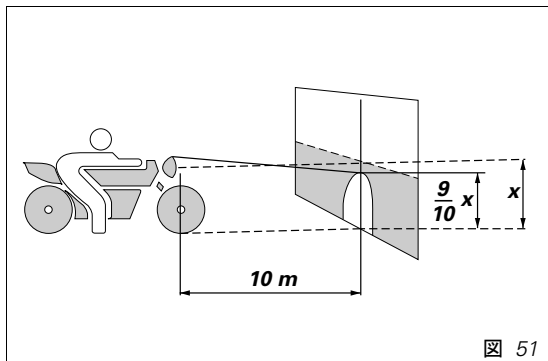


図 51

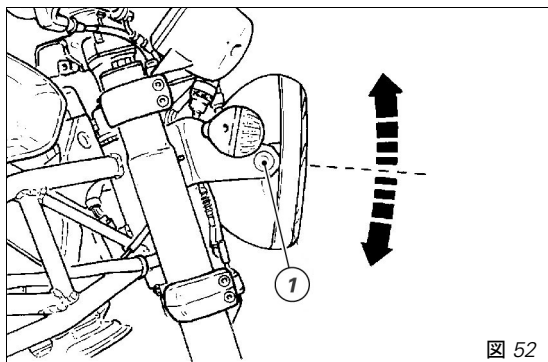


図 52

タイヤ

フロントタイヤ空気圧：

2,1 bar ~ 2,3 Kg/cm²

リアタイヤ空気圧：

2,2 bar ~ 2,4 Kg/cm²

タイヤの空気圧は気温や標高の影響も受けます；
したがって、走行する場所の気温と標高の条件に合わせて
チェックし、調整することをお勧めします。



重要

タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定しなければなりません。

フロントホイール・リムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を 0,2 ~ 0,3 bar 上げて下さい。

タイヤの修理 / 交換

タイヤに小さな穴が開いた場合、チューブレスタイヤは空気の減り方が遅いため、気付くまで時間がかかる事があります。タイヤの空気圧が下がってきた場合には、パンクの可能性をチェックして下さい。



警告

タイヤがパンクした場合はタイヤを交換して下さい。

交換する際は、指定標準タイヤと同じメーカー、タイプを御指定ください。

走行中のエア漏れを防ぐため、タイヤのバルブキャップがしっかり締まっていることを確認して下さい。チューブタイプのタイヤは絶対に使用しないで下さい。突然タイヤが破裂し、ライダー、パッセンジャーに危険を及ぼします。

タイヤ交換の後には、必ずバランスチェックを行って下さい。



重要

ホイールのバランスウェイトを外したり、移動させたりしないで下さい。



注意

タイヤの交換が必要な場合は、ホイールを正しく着脱することが大切ですので、Ducati 正規ディーラーの修理工場にお任せ下さい。

タイヤ摩耗の限界

タイヤのトレッド面が一番摩耗している所 (S, 図 53) で、溝の深さを測定して下さい：

溝の深さは 2 mm 以下、または道交法の基準値以下であってはなりません。



重要

タイヤに傷やヒビがないか、特に側面を注意深く目視点検し、ひどい損傷がある場合には交換して下さい。出っ張りや他と大きく異なる箇所は内部の損傷を表わしているので、タイヤを交換しなければなりません。

トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いて下さい。

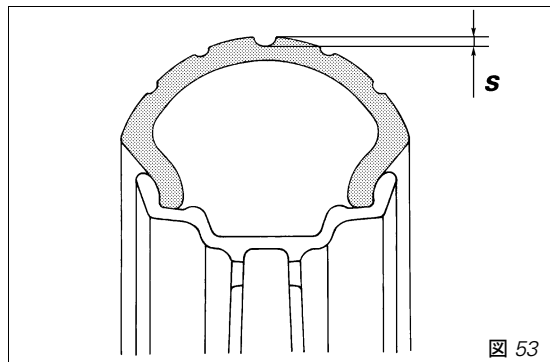


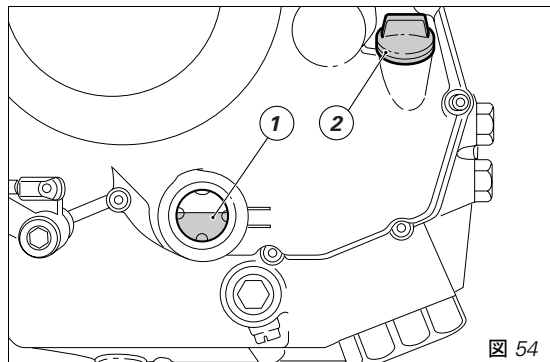
図 53

エンジンオイルレベルの点検 (図 54)

エンジンオイル量は、クラッチ・カバー上のオイル点検窓(1)で確認できます。

オイル量をチェックするには、車両を垂直に保ちます。エンジンが暖まった状態でチェックします。液面が安定するまで、エンジン停止後数分間待って下さい。

オイルレベルは、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイルレベルが低い時にはエンジンオイル SHELL Advance Ultra 4 を補充する必要があります。注入キャップ (2) を開け、オイルを正しいレベルまで補充します。注入キャップを閉じて下さい。



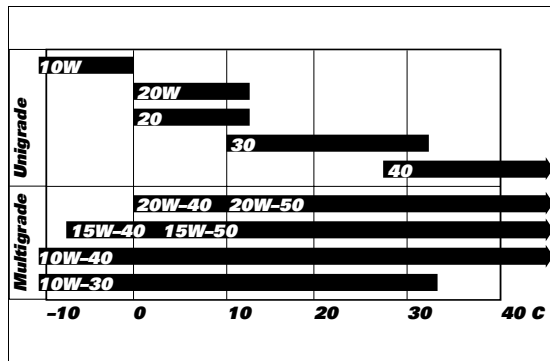
重要

定期点検表保証書に指示されている、エンジンオイルとフィルターの交換は、正規ディーラーまたは修理工場に依頼して下さい。

粘度

SAE 10W-40

車両の使用地の気温が表示された指定範囲内であれば、表に示された以外の粘度も使用できます。



スパークプラグの清掃と交換 (図 55)

スパークプラグはエンジンの作動においてとても重要で、定期的な点検が必要です。

この作業は簡単で素早く行え、エンジン状態を良く知ることができます。

スパークプラグからキャップを抜き取り、ヘッドから備品のレンチを使い取り外します。

中央電極のセラミックの色をチェックします: 明るい茶色であればエンジンの状態が良好なことを示しています。

もし変色していたり、汚れが堆積している場合には、スパークプラグを交換し、購入先の正規ディーラーにご報告下さい。

電極の摩耗もチェックします; 電極が減っていたりガラス状に溶けている場合には、スパークプラグを交換して下さい。

電極間の距離が

0,6 mm ~ 0,7 mm 間であるか確認します。

重要

調整のために電極を曲げる際は、慎重に行ってください。ギャップが広すぎたり、狭すぎたりするとエンジン性能に影響を及ぼし、また、始動困難やアイドリングの不安定を招きます。

金属ブラシを使って電極と絶縁体をていねいに清掃し、シールの状態をチェックします。

燃焼室に異物が混入しないように、シリンダーヘッドのプラグシートを注意して清掃します。

プラグをシリンダーヘッドの中にしかりと入るまで指で回して締め込みます。プラグは指定されたトルク 20Nm で締め込みます。

トルクレンチをお持ちでない場合には、指で締めた後、備品のスパークプラグ・レンチで更に 1/2 回転締め込むことで、指定されたトルクと同じ効果が得られます。

重要

指定と異なる熱価や、ネジ長のスパークプラグは絶対に使用しないで下さい。

スパークプラグはしっかりと締め付けなければなりません。

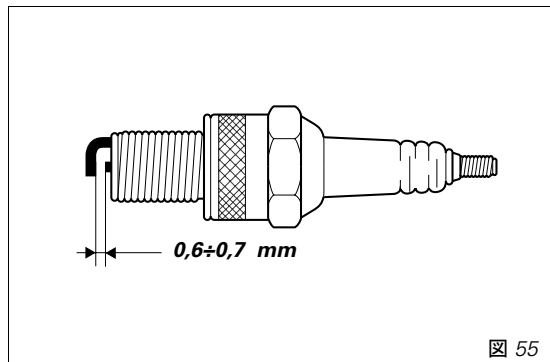


図 55

車両の清掃

ペンキ塗装部分とメタリック塗装部分のオリジナルな艶を長い間保つため、走行する道路のコンディションに合わせて、車両を定期的に清掃、洗車しなければなりません。車両に損傷を与えないように、強すぎる洗剤や溶剤を使用しないために専用の洗剤と水を使って洗車して下さい。

重要

走行後すぐに洗車すると、エンジンがまだ熱いため水分が蒸発し染みになる恐れがあります。高温や、ウォッシャー等の圧力のかかった水で洗淨しないで下さい。ウォッシャー等の使用は、サスペンションやホイールベアリング、電装部分、エア吸入口、マフラーの磨耗や変形をもたらすおそれがあります。

もしエンジンにひどく汚れた部分や油脂汚れなどがある時は、油取り用洗剤を使って、トランスミッション系統(チェーン、ギア、リム等)に洗剤がかからない様に気を付け洗淨します。水道水で良くすすぎ、車体全表面部をセーム革で拭きま



警告

洗車した後は、ブレーキ能力が落ちることがあります。ブレーキディスクには絶対に、グリースやその他のいかなるオイルを付けしないで下さい。ブレーキ能力が失われます。ディスクは非油性の溶剤で清掃して下さい。

長期間の不使用

車両を長期間使用しない場合には、保管する前に以下の作業を実施するようお勧めします：

車両を清掃します；

ドレンプラグをシールと共に外し、燃料タンクを空にします；

スパークプラグの穴からシリンダーの中に数滴のエンジンオイルを注入し、エンジンを手で数回転させてシリンダー内壁に保護膜を形成させます；

車両をスタンドに立てかけて正立させます；

ケーブルを外し、バッテリーを取り外します。1ヶ月以上車両を使用しなかった場合には、バッテリーの点検と充電を行う必要があります；

結露を防止し塗装を保護するため、車体はカバーで覆って下さい。

車体カバーは *Ducati Performance* にて取り扱っています。

重要注意事項

国によっては（フランス、ドイツ、イギリス、スイス等）排気ガス、騒音規制の基準を設けている場合があります。法に義務付けられた定期点検を行う他、規制に適さない部品がある場合は、適合する *Ducati* の特別オリジナル部品と取り代えて下さい。

テクニカルデータ

全体寸法 (mm) (図 56)

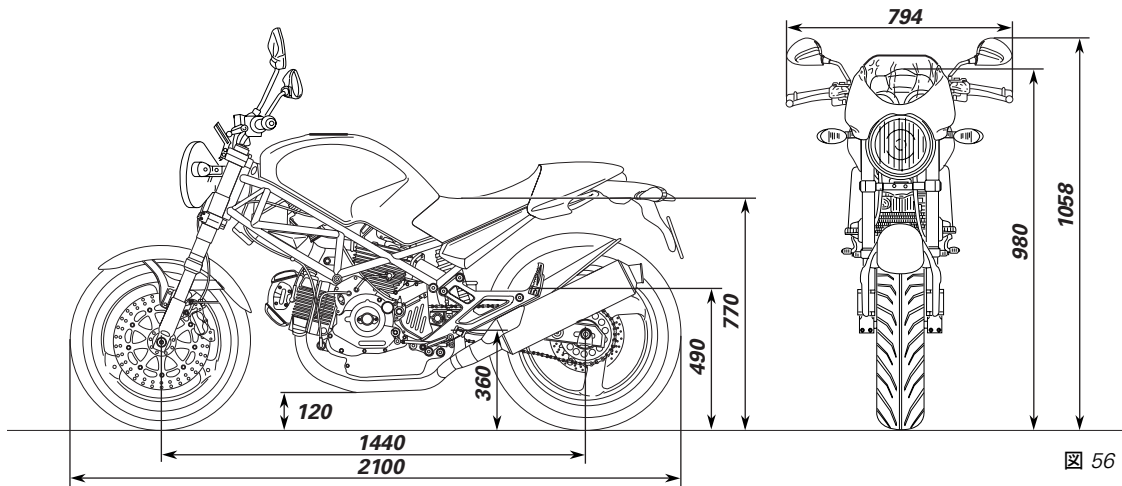


図 56

重量

装備重量 (燃料なし):

168 kg

最大積載重量:

390 kg



警告

重量制限を遵守しないと、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

燃料補充	タイプ	dm ³ (リットル)
燃料タンク、リザーブ 3,5dm(リットル)を含む	オクタン最低値 95 の無鉛ガソリン	15
クランクケース、エンジンオイルフィルター	SHELL - Advance Ultra 4	3,1
フロント・リアブレーキシステム、クラッチ	SHELL - Advance Brake DOT 4	—
電極保護液	SHELL Advance Contact Cleaner	—
フロントフォーク	SHELL - Advance Fork 7.5 または Donax TA	0,400 (シャフトごと)



重要

絶対に燃料、オイル等には添加剤を加えないで下さい。

エンジン

縦 90° L 型・4 サイクル 2 気筒。

ボア :

70,5

ストローク :

51

総排気量 cm^3 :

398

圧縮比

10:0,5:1

最大出力、クランクシャフト (95/1/EC) :

32,5 kw -44 馬力 / 11. 000 rpm.

最大軸トルク、(95/1/EC) :

32 Nm - 9. 000 rpm

タイミング・システム

デスモドロミック・システム : シリンダーごとに 2 本のバルブ、4 本のロッカーアーム (2 オープニング・ロッカーアーム、2 クロージング・ロッカーアーム)、カムシャフト。クランクシャフトよりスパーギアとベルトローラー / コグドベルトで駆動されるカムシャフトによって制御されます。

デスモドロミック・タイミングシステム (図 57)

- 1) オープニング (もしくは上側) ・ ロッカーアーム
- 2) オープニング・ロッカー・シム
- 3) ハーフリング
- 4) クロージング (もしくは下側) ・ ロッカー・シム
- 5) ロッカーアーム・リターン・スプリング
- 6) クロージング (もしくは下側) ・ ロッカー・シム
- 7) カムシャフト
- 8) バルブ

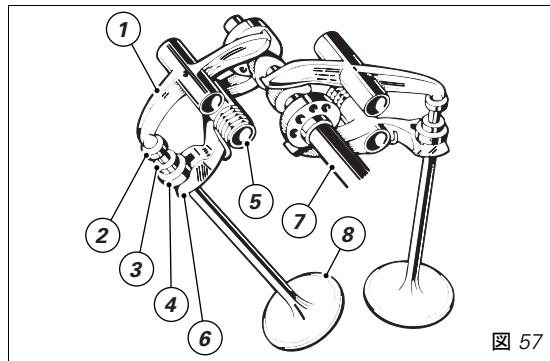


図 57

性能データ

各ギアにおける最高速度への到達は適切な指定点検整備を受けて、適正な慣らし期間が済んだ後に限ります。



重要

これは保証の必須条件で、この条件が順守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については *Ducati* モーター・ホールディング社はいかなる責任を負うものではありません。

スパークプラグ

メーカー：
CHAMPION

タイプ：
RA 6 HC
RA 4 HC

メーカー：
NGK

タイプ：
DCPR8E

燃料供給

間接電動式インジェクション *MARELLI*.

スロットルボディ直径：

45 mm

シリンダー用インジェクター：1

インジェクター用穴：1

ガソリン供給： *95-98 RON*.

ブレーキ

フロント

タイプ :

スチール製穴付きディスク

ディスク 2枚

ディスク径 :

320 mm

右側ハンドルバーレバーによる油圧作動。

ブレーキ表面、 cm^2 :

2x44

ダブルピストン・ブレーキキャリパー。

メーカーおよびタイプ :

BREMBO 30/34-4 ピストン

ブレーキパッド材質 :

FERIT I/D 450FF

ポンプ形式 :

PS 16.

リア

タイプ :

穴付き固定ディスク、スチール製。

ディスク径 :

245 mm

車体右側ペダルによる油圧作動。

有効面積 :

25 cm^2

ブレーキキャリパー :

シリンダー \varnothing 32 mm.

メーカーおよびタイプ :

BREMBO P 2.

ブレーキパッド材質 :

FERIT I/D 450FF

ポンプ形式 :

PS 11.



警告

ブレーキ液は腐食性です。誤って目や皮膚に付いた場合は大量の流水で洗浄して下さい。

トランスミッション

クラッチ：

湿式マルチディスク：

ハンドルバー左側レバーにより操作。

エンジンとギアボックス・メインシャフト間の駆動伝達。

エンジンプロケット / クラッチプロケット比：

33/61

ギア：

6速：

コンスタントギア、左側ペダルによる操作。

ギアプロケット / リアプロケット比：

14/48

総ギア比：

1速 13/32

2速 18/30

3速 21/28

4速 23/26

5速 22/22

6速 26/24

チェーンによるギアボックスとリアホイール間駆動伝達：

メーカー：

DID

タイプ：

520 V6

サイズ：

5/8" x 1/4"

リンク数：

106



重要

上記のギア比は認可されたもので、いかなるものがあっても変更してはいけません。

この車両を競技用に仕様変更する場合には、*Ducati* モーター・ホールディング社から特別なギア比に関する情報を提供いたしますので、正規ディーラーにお問い合わせ下さい。



警告

リア・スプロケットの交換作業は、正規ディーラーにお任せ下さい。

この部分の誤った交換作業はライダーの安全に深刻な危険をもたらす、車両に回復不能な損傷を与える原因となります。

フレーム

ハイテンション・スチールパイプを用いたトレリス・フレーム。

ハンドル切れ角（左右）：

27°

キャスト角度

24°

トレール mm：

96

ホイール

軽合金製 3本スポークリム。

フロント

メーカー：

BREMBO

サイズ：

MT3.50x17"

リア

メーカー：

BREMBO

サイズ：

MT4.50x17"

ホイールは両方ともシャフト取り外し可能です。

タイヤ

フロント

チューブレス・ラジアルタイヤ

サイズ：

120/60-ZR17

リア

チューブレス・ラジアルタイヤ

サイズ：

160/60-ZR17

サスペンション

フロント

ハイドロリック倒立フォーク

チューブ直径：43 mm

フォーク軸：130 mm

リア

ロッカーアームのフレーム支点とショックアブソーバーのピボット・ポイントの配置によりプログレッシブなアクションが可能となります。

ショックアブソーバーはスプリング・プリロード及びリバウンド・ダンピングの調整が可能です。ショックアブソーバーは(400モデルのみ)ステンレス、またはアルミニウム製スイングアームの下部に内蔵されています。

スイングアームはエンジンを貫通したピボットシャフト回りを回転しています。

このシステムは、車両に高い安定性をもたらしめます。

ショックアブソーバーストローク：65 mm

リアホイール幅：148 mm



注意

基準に沿い承認されたこの車両の技術的特徴を変更してはいけません。

排気システム

ヨーロッパの公害防止規制 *EURO2* に適合した触媒。
U.S.A. バージョン：触媒システムなし

カラーバリエーション

400

ドゥカーティ・アニバーサリー・レッド *cod. 473.101*
(PPG);
レッドフレーム、ブラックホイール

ダークグレー *cod. *0017* (PPG);
メタリックグレーフレーム、レッド *FLUO* ホイール

ルシッドブラック *cod. 248.514* (PPG);
ブラックフレーム、ブラックホイール

400 DARK

ダークブラック *cod. 291.501* (PPG);
ブラックフレーム、ブラックホイール

電気装置

主要構成パーツは以下の通りです：

ヘッドライト：

電球： *H4 (12V-55/60W)*

パーキングライト：

電球： *T4W (12V-4W)*

ハンドルパー・スイッチ：

ウインカー：

電球： *R10W (12V-10W)*

警告ホーン

ストップ・ライト・スイッチ

バッテリー、*12V-10 Ah*

ジェネレーター、*12V-520W*

レギュレーター、バッテリー側面に *40A* の保護ヒューズ
付き。

スターターモーター、*12V-0,7kW*

テールランプ・ストップランプ：

電球： *P21/5W (12V-5/21W)*

ナンバープレートライト：

電球： *W5W (12-5W)*



注意

電球の交換 については、50 ページの “電球の交換”
を参照して下さい。

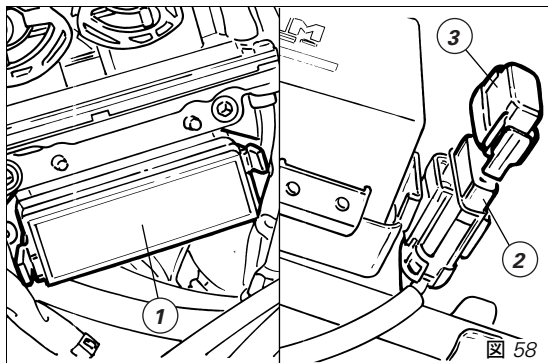
ヒューズ

主要ヒューズボックスは、バッテリーの左側に配置されています (図 58)。

ヒューズの交換するには、各ヒューズの配置と定格が表記されたプロテクション・カバー (1) を外してください。6つのヒューズのみ接続されており、あとの2つは予備です。

バッテリーの右側にあるヒューズ 40A (2)(図 58)はエレクトロニック・レギュレーターを保護しています。交換するには、保護キャップ (3) を取り外します。

切れたヒューズは、インナー・フィラメントが断線していることで確認できます (4, 図 59)。

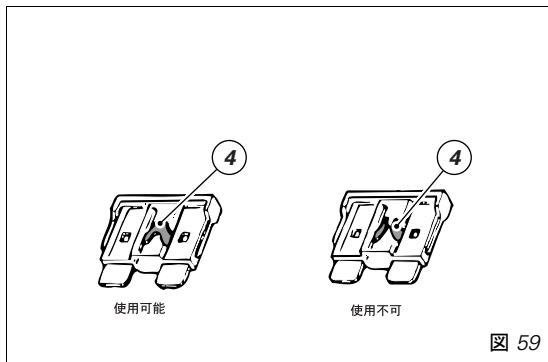


重要

回路のショートを防ぐために、ヒューズ交換の前には、イグニッション・キーを **OFF** にして下さい。

警告

表示されている値以外のヒューズは決して使用しないで下さい。このルールを守らない場合には、電気回路に損傷を招き、火災の原因となります。



イグニッション / 配線図凡例

- 1) 右側スイッチ
- 2) トランスポンダーアンテナ
- 3) キースイッチ
- 4) メインリレー
- 5) ヒューズボックス
- 6) 作動システム
- 7) リモコン作動
- 8) バッテリー
- 9) 調整ヒューズ
- 10) レギュレーター
- 11) ジェネレーター
- 12) 右リアウインカー
- 13) テールランプ
- 14) ナンバープレート・ライト
- 15) 左リアウインカー
- 16) 燃料タンク
- 17) 自動診断接続
- 18) 速度センサー
- 19) ホリゾンタルシリンダーコイル
- 20) パーチカルシリンダーコイル
- 21) スパークプラグホリゾンタルシリンダー
- 22) スパークプラグパーチカルシリンダー
- 23) インジェクターホリゾンタルシリンダー
- 24) インジェクターパーチカルシリンダー
- 25) 補強スロットル
- 26) エンジン回転 / 作動・センサー
- 27) サイドスタンドスイッチ
- 28) コントロールユニット 5.9 M.
- 29) インジェクションリレー
- 30) ニュートラルスイッチ
- 31) オイルプレッションスイッチ
- 32) リアストップライトスイッチ
- 33) フロントストップスイッチ
- 34) 左側スイッチ
- 35) 気温 / 気圧センサー
- 36) 計器類 (ダッシュボード)
- 37) 左フロントウインカー
- 38) 警告ホーン
- 39) ヘッドライト
- 40) 右フロントウインカー
- 41) オイル温度センサー
- 42) 計器オイル温度センサー
- 43) クラッチスイッチ

配線カラー表

B	青
W	白
V	紫
Bk	黒
Y	黄
R	赤
Lb	ライトブルー
Gr	グレー
G	緑
Bn	茶
O	オレンジ
P	ピンク

ヒューズボックス凡例

配置	内容	アンペア値
1-9	一般	30 A
2-10	燃料ポンプ、インジェクター、コイル	20 A
3-11	Key sense	10 A
4-12	中央電源	3 A
5-13	Passing	7,5 A
6-14	パーキングライト、メーターパネル、ハイ/ロービーム	15 A
7-15	ストップライト、警告ホーン	10 A
8-16	速度センサー	5 A



注意

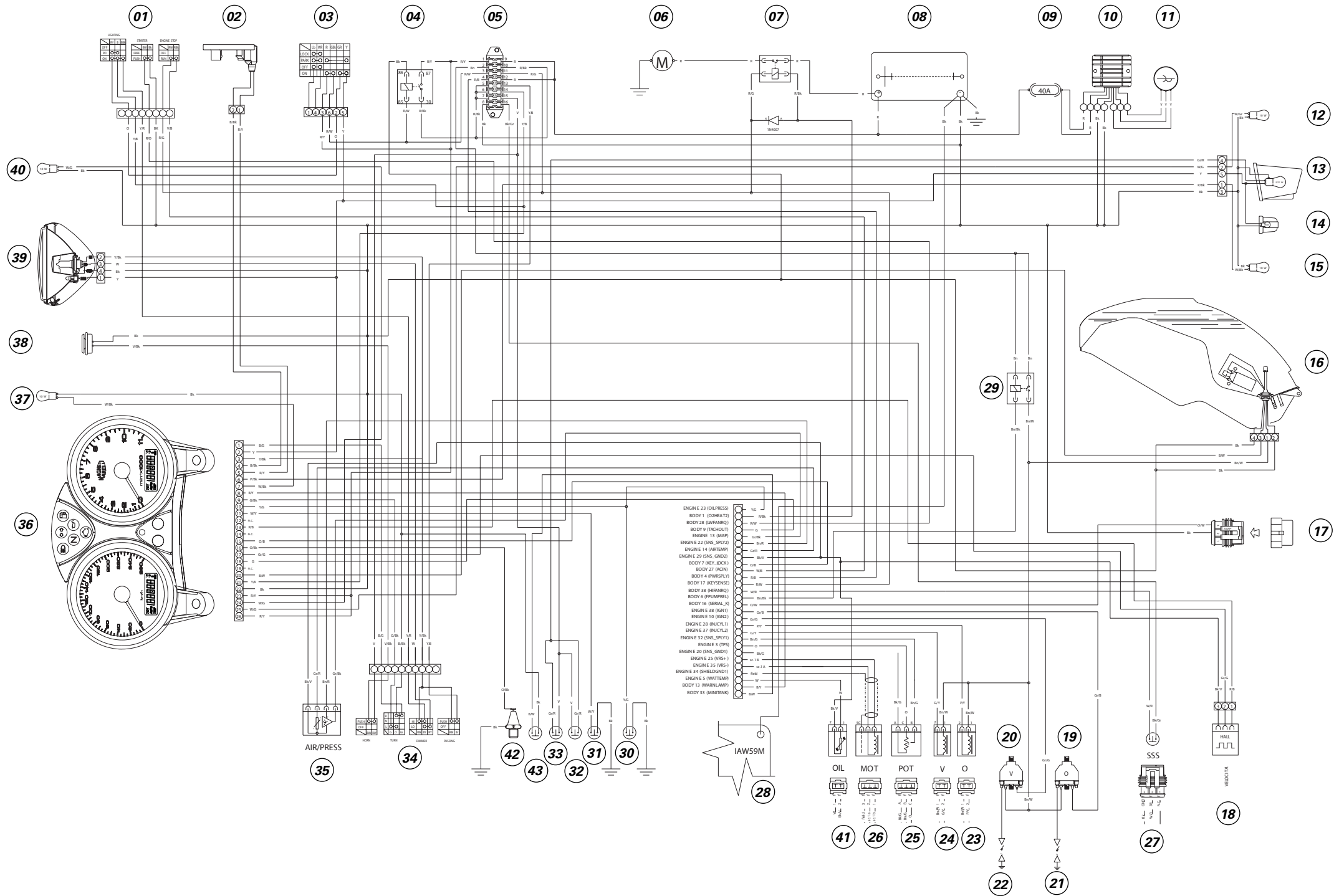
配線図は、このマニュアルの最後にあります。

定期点検メモ

<i>Km</i>	<i>Ducati</i> 正規ディーラー名	走行距離	実地日
1000			
10000			
20000			
30000			
40000			
50000			

DUCATIMOTORHOLDING S.p.A.
Via Cavalieri Ducati, 3
40132 Bologna, Italy
Tel 39.051.6413111
Fax 39.051.406580
www.ducati.com

913.7.095.1B
Stampato 06/2004



Monster 400
Monster 400Dark

コネクタはすべて「C」から見た状態です。

DUCATI MOTORHOLDING S.p.A.

Via Cavalieri Ducati, 3

40132 Bologna, Italia

Tel. 0039/0516413111

Fax 0039/051406580

www.ducati.com